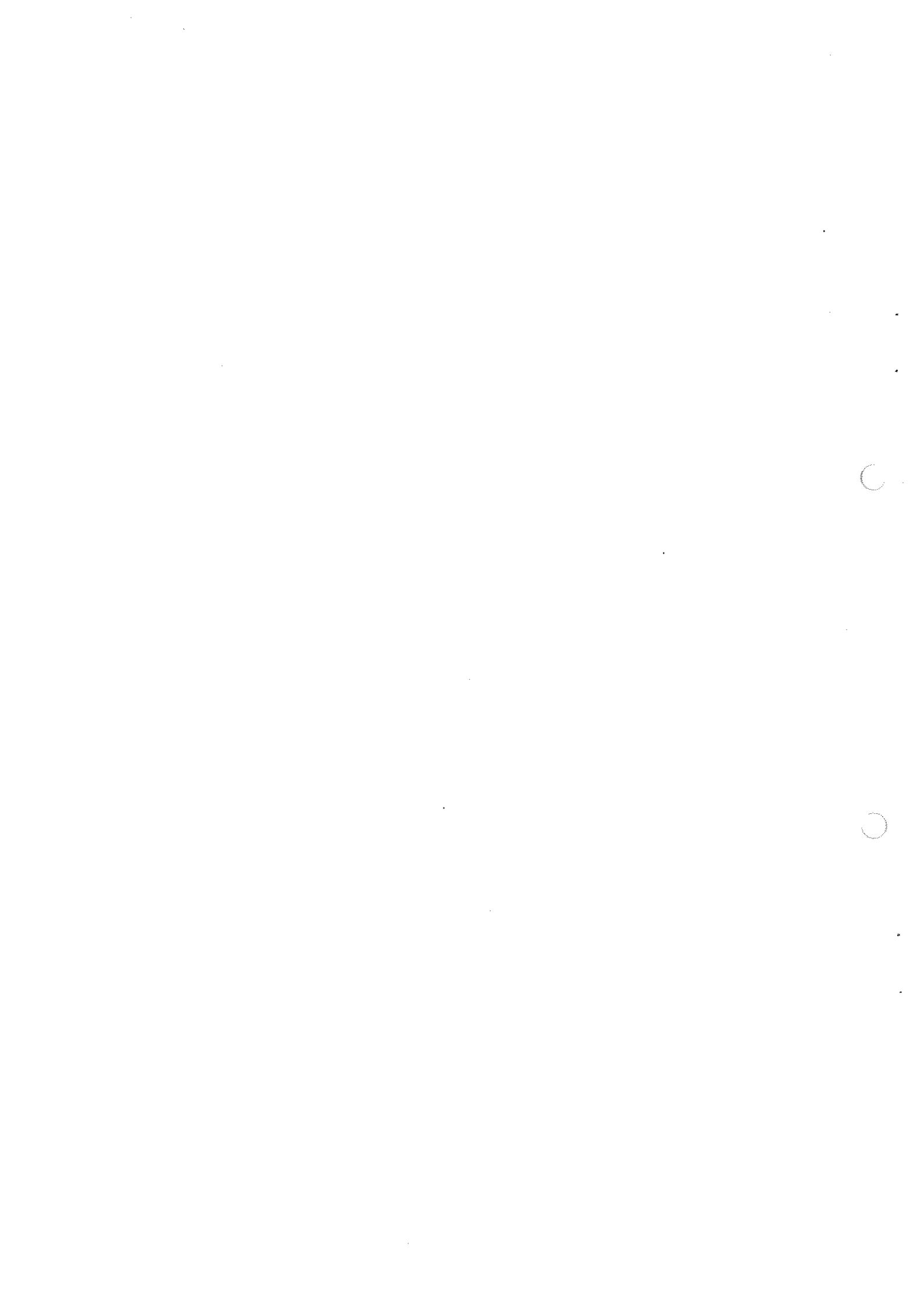


女川原子力発電所
温排水調査結果

令和元年度 第1四半期



目 次

1. 調査概要

(1) 調査機関	1
(2) 調査項目等	1

2. 調査結果の概要

(1) 水温・塩分調査	2
(2) 水温調査（モニタリング）	19

(資 料)

・ 調査方法	23
・ 水温・塩分調査時の観測条件	26
・ 水温水平分布図（宮城県測定分）	27
・ 水温水平分布図（東北電力測定分）	29
・ 塩分水平分布図（宮城県測定分）	31
・ 塩分水平分布図（東北電力測定分）	33
・ 水温調査（モニタリング）	35

C

O

1. 調査概要

本報告書は、「女川原子力発電所環境放射能及び温排水測定基本計画」に基づき、令和元年度第1四半期（平成31年4月1日～令和元年6月30日）に実施した温排水調査結果のうち、水温・塩分調査および水温調査（モニタリング）結果について報告するものであり、それ以外の調査結果については、令和元年度報告書としてとりまとめの上、別途報告する。

(1) 調査機関

	調査担当機関
宮城県	宮城県水産技術総合センター
東北電力(株)	女川原子力発電所

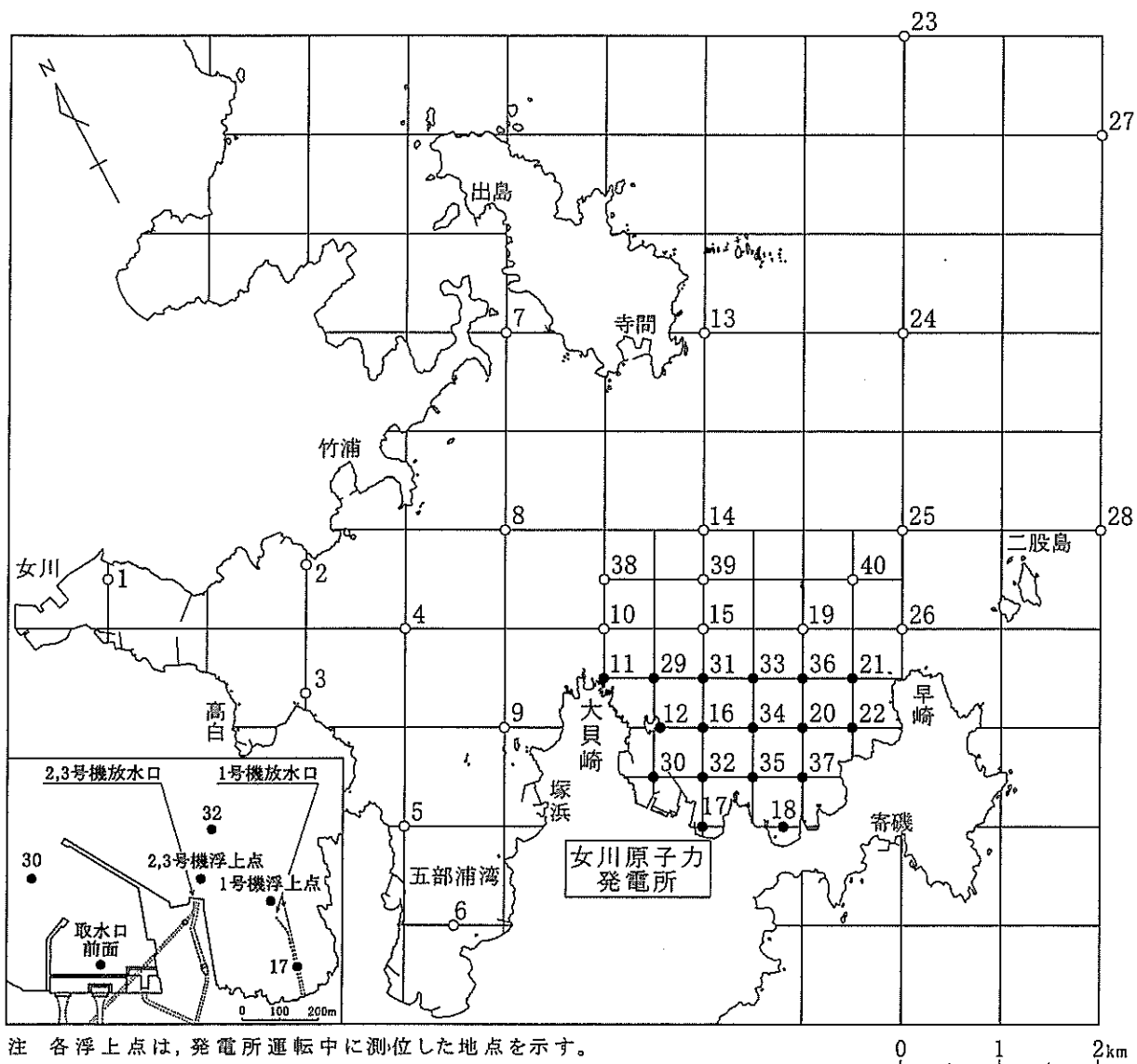
(2) 調査項目等

調査事項	調査項目	宮城県	東北電力(株)
		地点数	地点数
水温・塩分調査	水温・塩分	43	43
水温調査（モニタリング）	水温	6	9

2. 調査結果の概要

(1) 水温・塩分調査

水温・塩分調査においては、大貝崎と早崎とを結ぶ線の内側の入り江を前面海域、その他を周辺海域として記述することとする。



凡	● 前面海域の調査点
例	○ 周辺海域の調査点

図-1 水温・塩分調査位置

当該四半期の水温・塩分調査で得られた結果からは、温排水の影響と考えられる異常な値は観測されなかった。

なお、調査結果は以下に示す通りである。

イ. 水温

(イ) 4月10日 (表-1, 3, 図-2, 3)

前面海域の水温は5.7~6.4℃の範囲、1号機浮上点の水温は6.0~6.4℃の範囲、2,3号機浮上点の水温は5.9~6.4℃の範囲にあった。一方、周辺海域の水温は5.2~6.7℃の範囲にあり、前面海域の水温は周辺海域の水温の範囲内にあった。なお、昨年同期の前面海域の水温は9.8~10.4℃、周辺海域の水温は9.7~11.3℃の範囲にあった。水温水平分布、St. 17-St. 29, St. 17-St. 15, St. 17-St. 33およびSt. 17-St. 21ラインの水温鉛直分布では、温排水の量が僅かであり、浮上点付近に異なる水温分布は見られず、いずれも過去同期の水温の範囲内にあった。

また、浮上点および浮上点付近水温と取水口前面との較差については、1号機浮上点および2,3号機浮上点においてそれぞれ0.0~0.2℃、St. 17においては0.0~0.1℃、St. 32においては-0.2~0.1℃であり、全て過去同期の範囲内にあった。

(ロ) 5月20日 (表-2, 3, 図-4, 5)

前面海域の水温は8.6~11.7℃の範囲、1号機浮上点の水温は9.7~10.7℃の範囲、2,3号機浮上点の水温は10.1~10.4℃の範囲にあった。一方、周辺海域の水温は8.4~15.3℃の範囲にあり、前面海域の水温は周辺海域の水温の範囲内にあった。なお、昨年同期の前面海域の水温は10.1~13.3℃、周辺海域の水温は9.6~13.3℃の範囲にあった。水温水平分布、St. 17-St. 29, St. 17-St. 15, St. 17-St. 33およびSt. 17-St. 21ラインの水温鉛直分布では、温排水の量が僅かであり、浮上点付近に異なる水温分布は見られず、いずれも過去同期の水温の範囲内にあった。

また、浮上点および浮上点付近水温と取水口前面との較差については、1号機浮上点において0.0~0.4℃、2,3号機浮上点において0.0~0.5℃、St. 17においては-0.3~0.3℃、St. 32においては0.2~0.9℃であり、取水口前面との較差はSt. 32の海面下10m層で過去の範囲を0.1℃上回っていたが、これは沖合底層の冷水による影響と考えられた。なお、その他の較差については、過去同期の範囲内にあった。

ロ. 塩分

(イ) 4月10日 (表-4)

塩分は31.9~33.4の範囲にあり、水平分布の較差は0.5~1.3、鉛直分布の較差は0.3~1.3の範囲にあつて、海域全体でほぼ同じ値であった。

なお、昨年同期の塩分は31.8~34.1の範囲にあった。

(ロ) 5月20日 (表-5)

塩分は31.8~33.9の範囲にあり、水平分布の較差は0.3~2.0、鉛直分布の較差は0.1~1.7の範囲にあつて、海域全体でほぼ同じ値であった。

なお、昨年同期の塩分は32.6~33.9の範囲にあった。

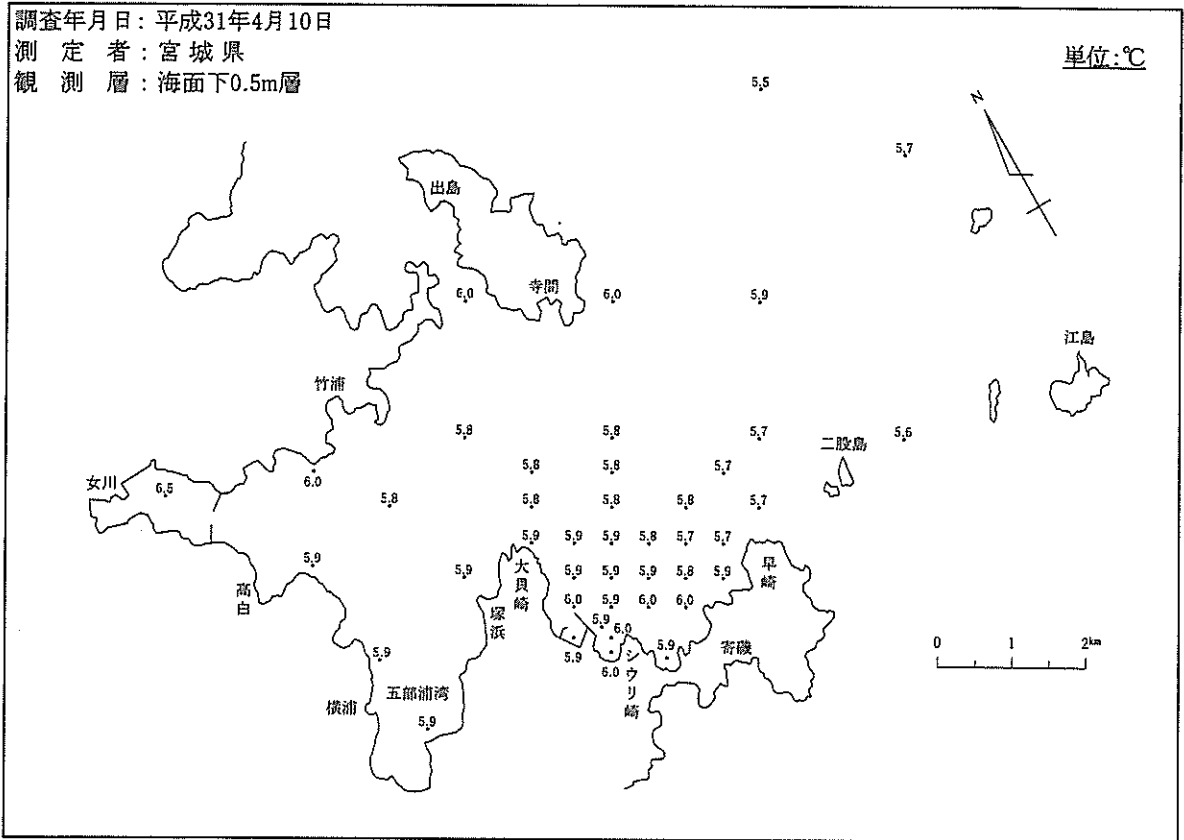
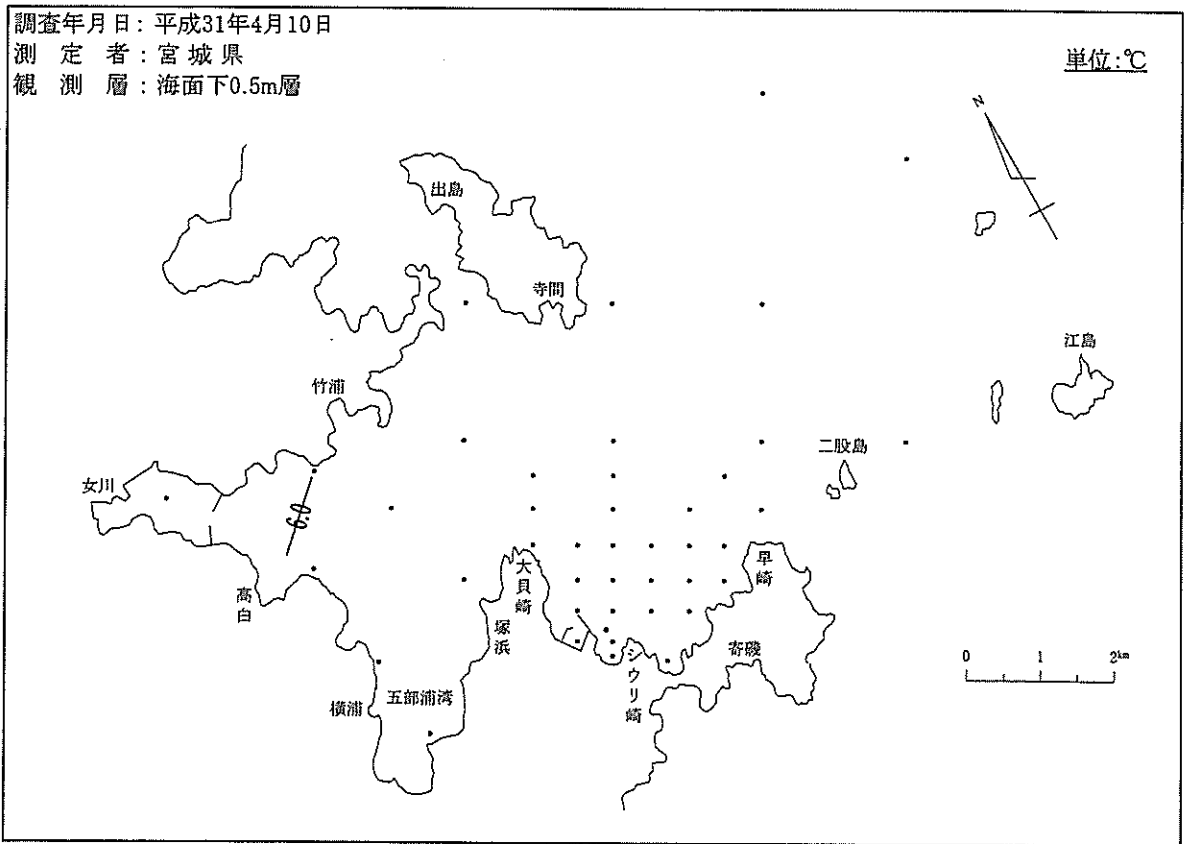
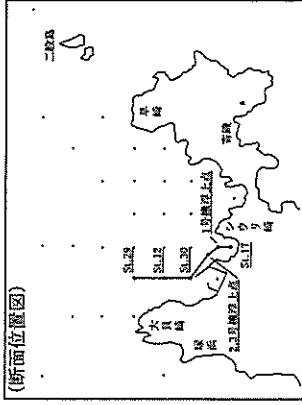
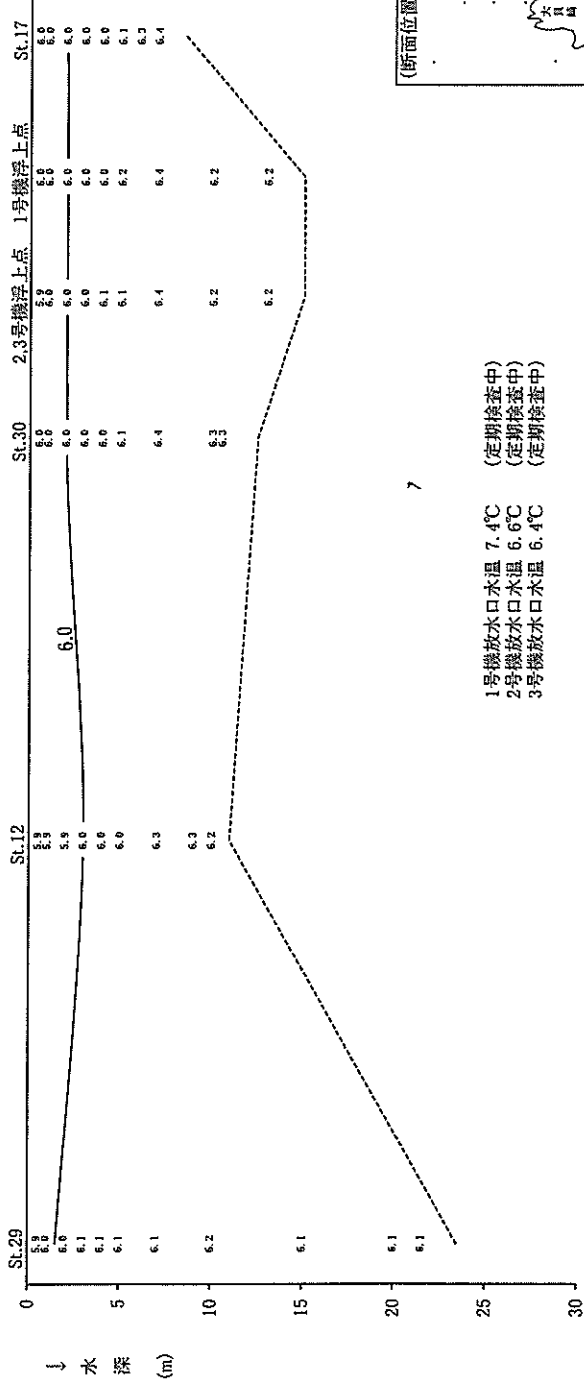


図-2-(1) 水温水平分布



注 等温線は、水温分布の一例を示す。

図-2-(2) 等温線



1号機放水口水温 7.4℃ (定期検査中)
 2号機放水口水温 6.6℃ (定期検査中)
 3号機放水口水温 6.4℃ (定期検査中)

注1 調査結果の水温分布に基づき、参考までに等温線 (1℃毎) を引いた。
 2 等温線は、水温分布の一例を示す。
 3 水深は調査時の測定値である。

図-3-(1) St.17-St.29ラインの水温鉛直分布(1・2,3号機浮上点含む)

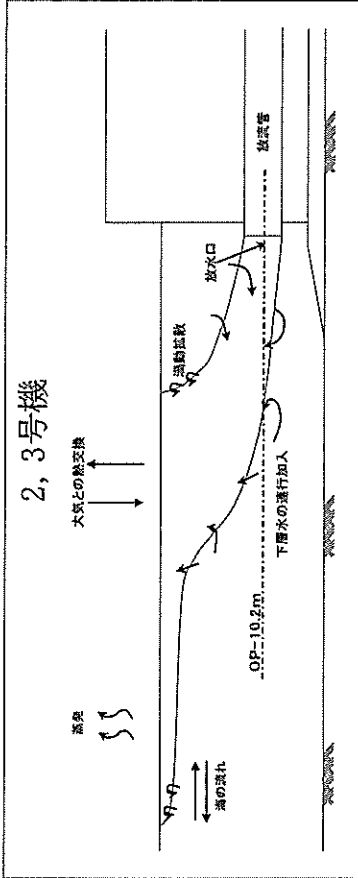
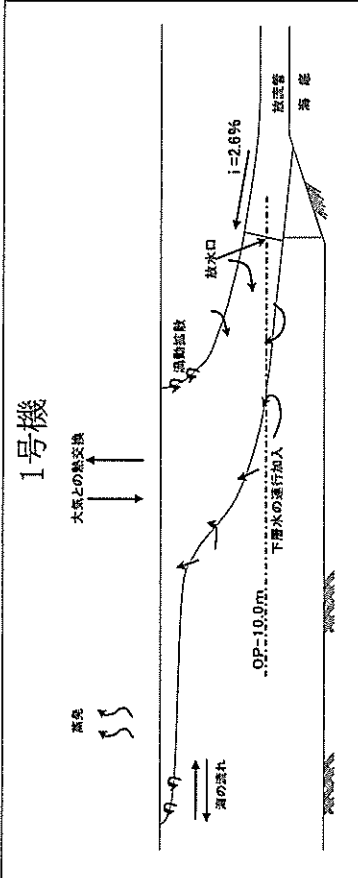
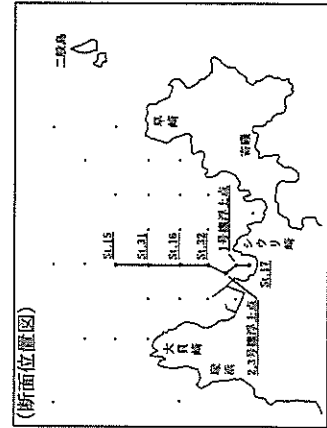
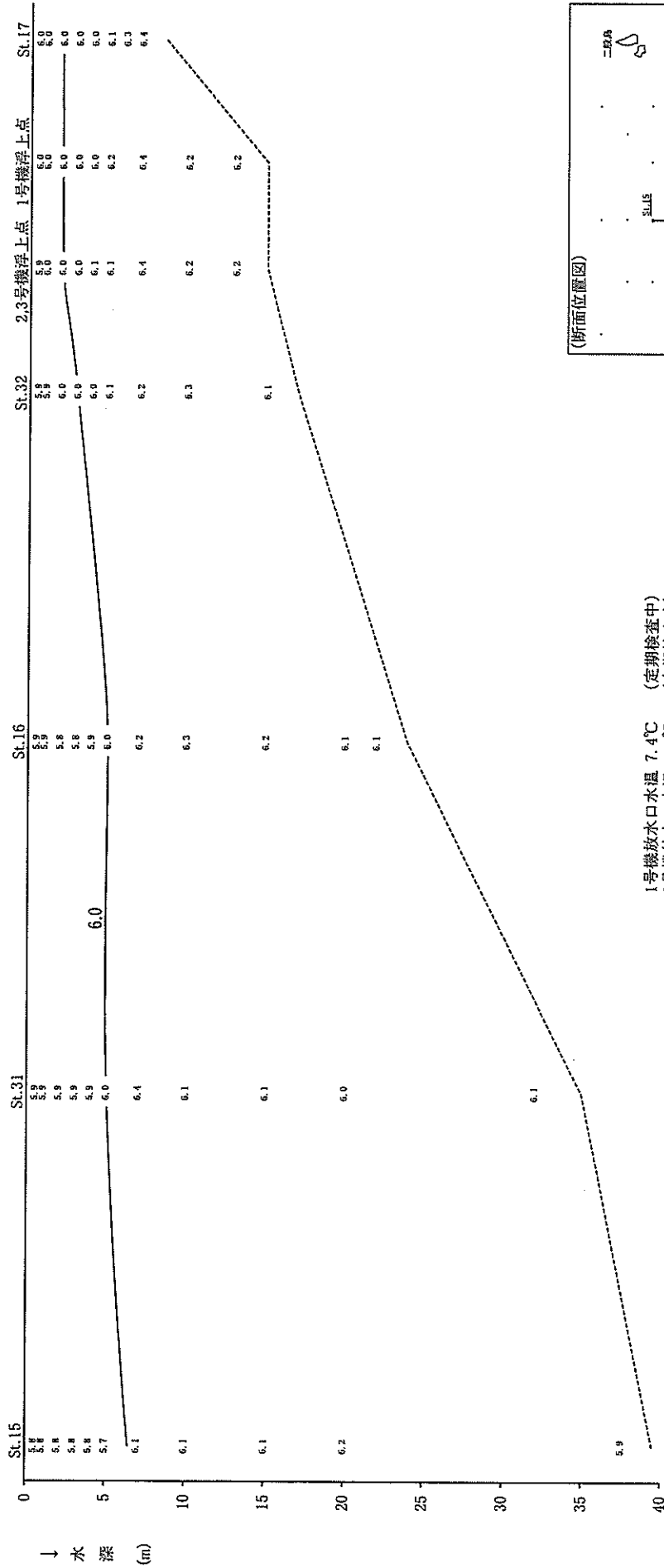


図-3-(2) 水中放流方式における温排水の拡散概念

調査年月日:平成31年4月10日 測定者:宮城県

単位:℃



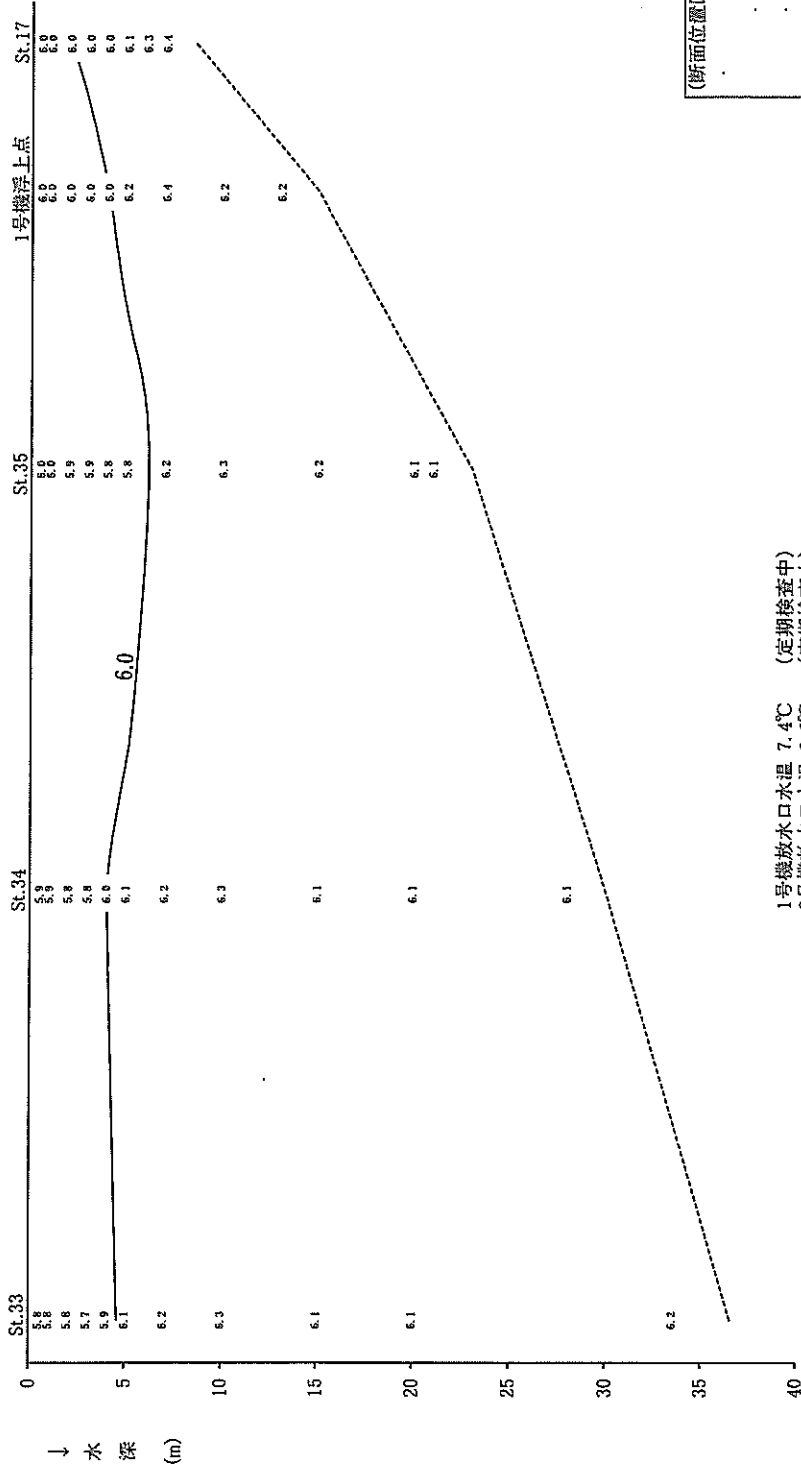
1号機放水口水温 7.4℃ (定期検査中)
 2号機放水口水温 6.6℃ (定期検査中)
 3号機放水口水温 6.4℃ (定期検査中)

注1 調査結果の水温分布に基づき、参考までに等温線 (1℃毎) を引いた。
 注2 等温線は、水温分布の一例を示す。
 注3 水深は調査時の測定値である。

図-3-(3) St.17-St.15ラインの水温鉛直分布(1・2,3号機浮上点含む)

単位:℃

調査年月日:平成31年4月10日 測定者:宮城県



1号機放水口水温 7.4℃ (定期検査中)
 2号機放水口水温 6.6℃ (定期検査中)
 3号機放水口水温 6.4℃ (定期検査中)

注1 調査結果の水温分布に基づき、参考までに等温線 (1℃毎) を引いた。
 注2 等温線は、水温分布の一例を示す。
 注3 水深は調査時の測定値である。

(断面位置図)

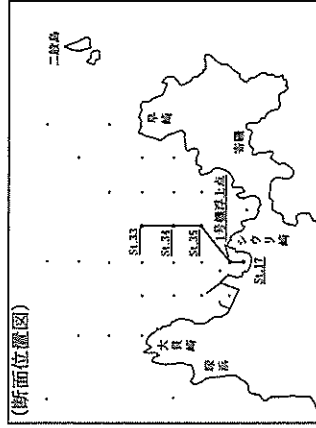


図-3-(4) St.17-St.33ラインの水温鉛直分布(1号機浮上点含む)

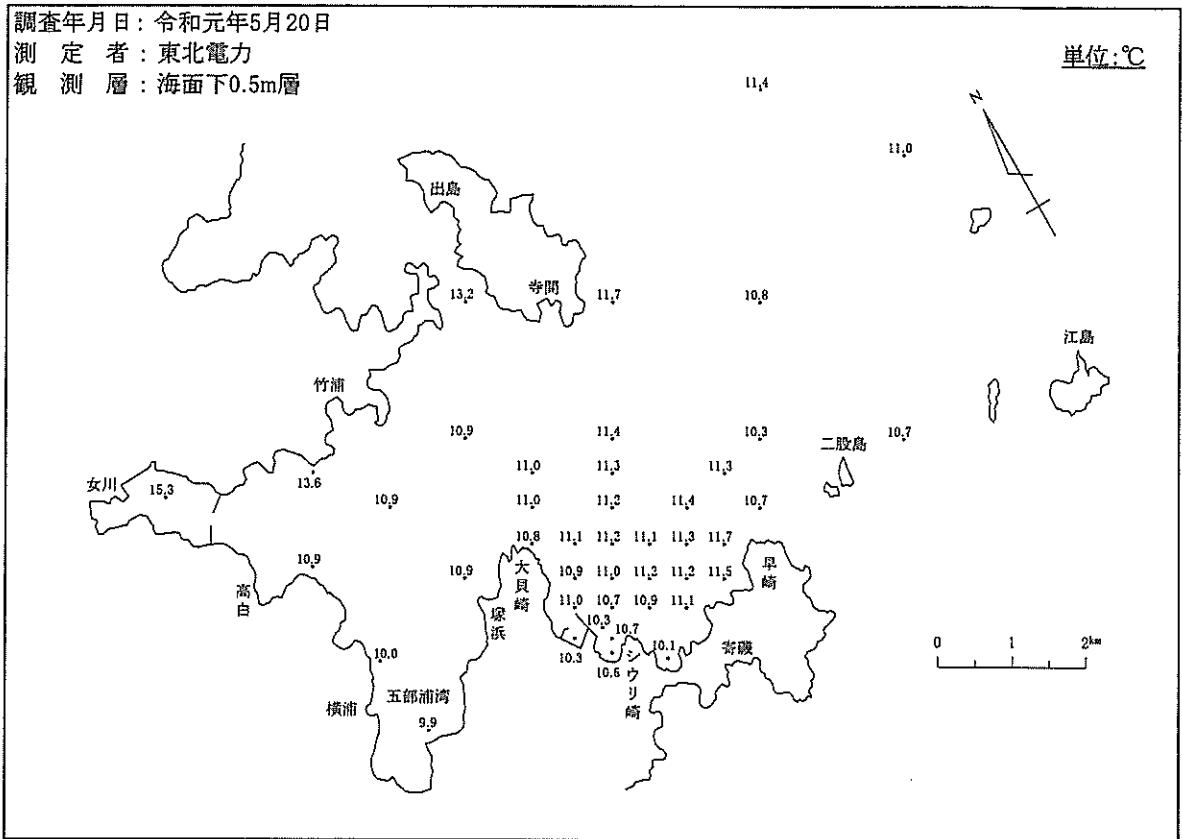
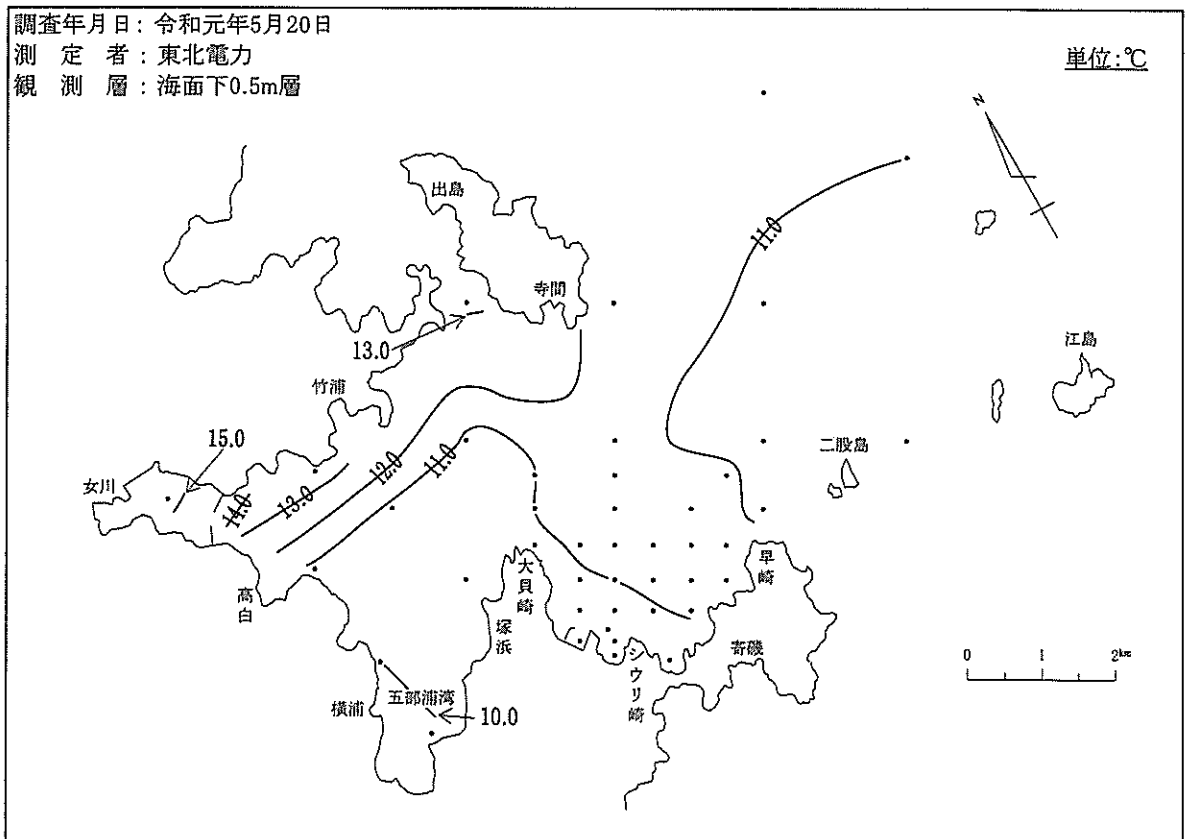


図-4-(1) 水温水平分布

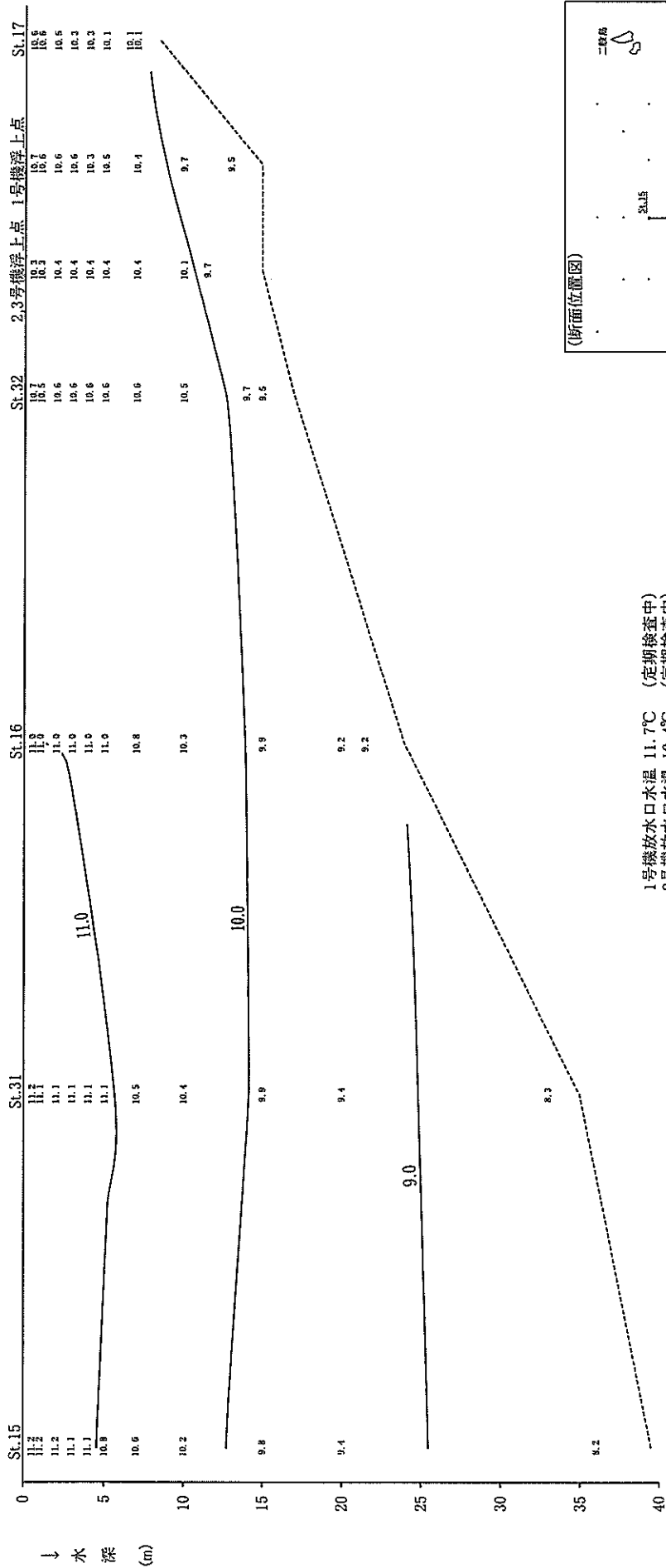


注 等温線は、水温分布の一例を示す。

図-4-(2) 等温線

調査年月日：令和元年5月20日 測定者：東北電力

単位：℃



- 1号機放水口水温 11.7℃ (定期検査中)
- 2号機放水口水温 10.4℃ (定期検査中)
- 3号機放水口水温 10.3℃ (定期検査中)

注1 調査結果の水温分布に基づき、参考までに等温線 (1℃毎) を引いた。
 2 等温線は、水温分布の一例を示す。
 3 水深は調査時の測定値である。

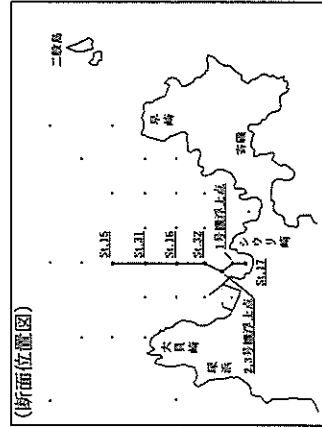
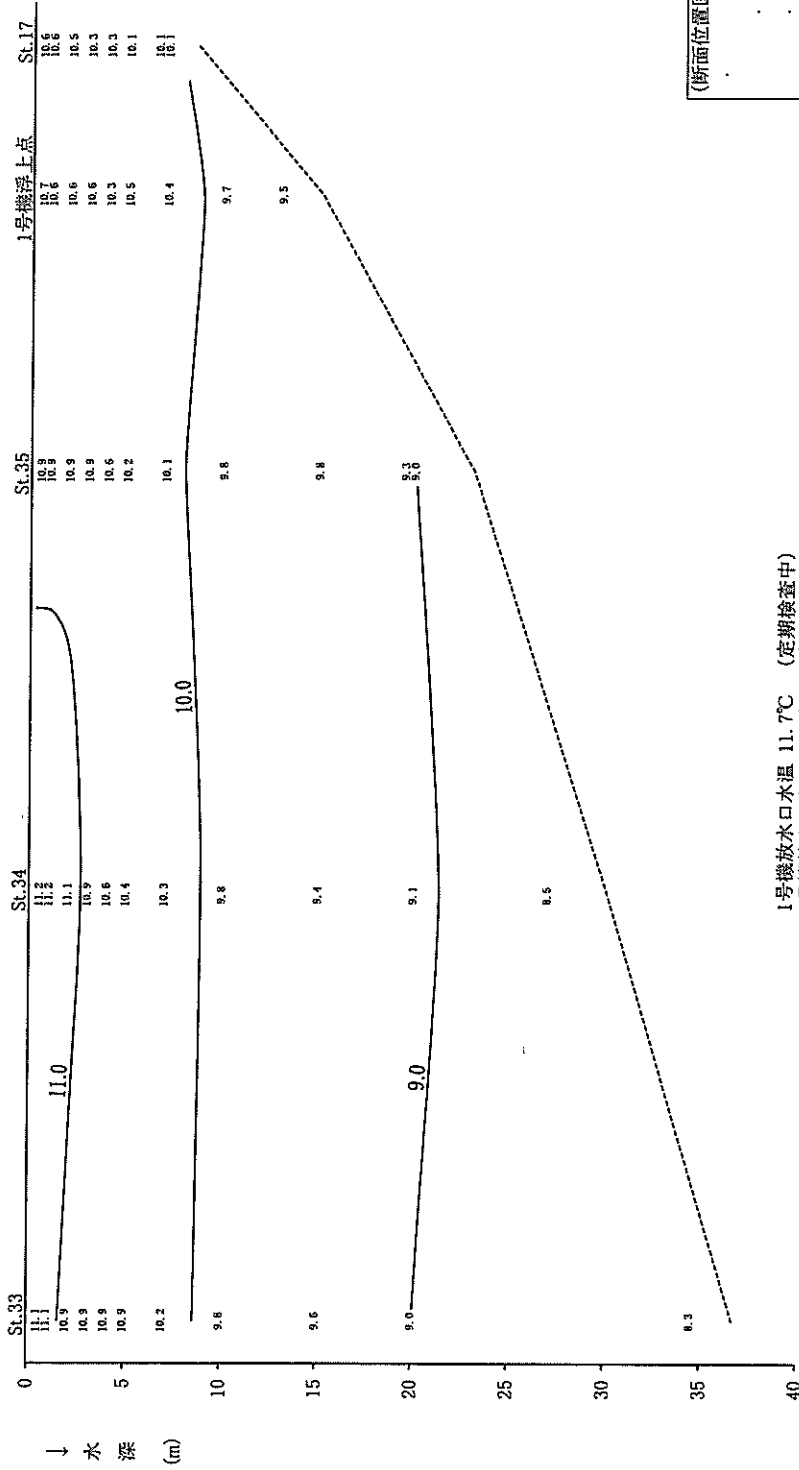


図-5-(3) St.17-St.15ラインの水温鉛直分布(1・2,3号機浮上点含む)

調査年月日：令和元年5月20日 測定者：東北電力

単位：℃



- 1号機放水口水温 11.7℃ (定期検査中)
- 2号機放水口水温 10.4℃ (定期検査中)
- 3号機放水口水温 10.3℃ (定期検査中)

注1 調査結果の水温分布に基づき、参考までに等温線 (1℃毎) を引いた。
 2 等温線は、水温分布の一例を示す。
 3 水深は調査時の測定値である。

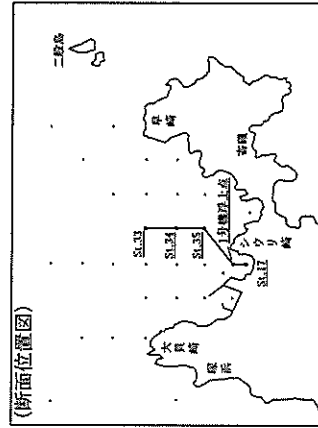
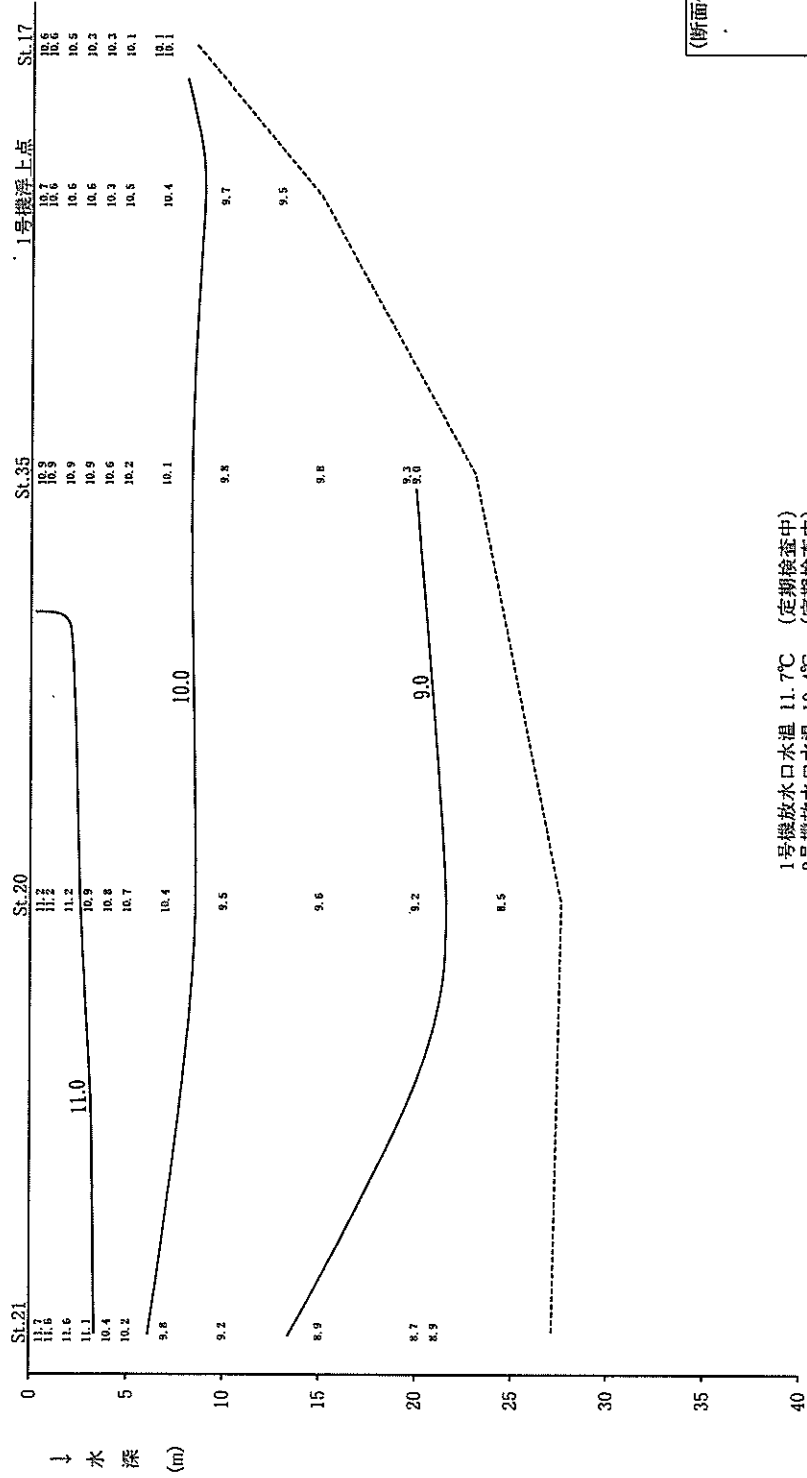


図-5-(4) St.17-St.33ラインの水温鉛直分布(1号機浮上点含む)

調査年月日：令和元年5月20日 測定者：東北電力

単位：℃



1号機放水路水温 11.7℃ (定期検査中)
 2号機放水路水温 10.4℃ (定期検査中)
 3号機放水路水温 10.3℃ (定期検査中)

注1 調査結果の水温分布に基づき、参考までに等温線 (1℃毎) を引いた。
 注2 等温線は、水温分布の一例を示す。
 注3 水深は調査時の測定値である。

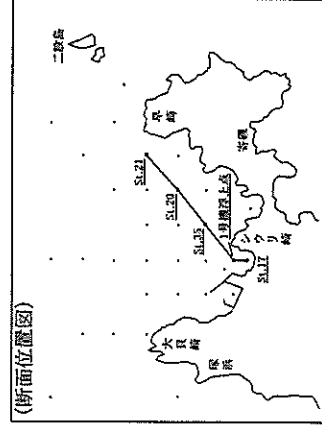


図-5-(5) St.17-St.21ラインの水温鉛直分布(1号機浮上点含む)

表-3 浮上点他の水温鉛直分布と取水口前面水温との較差

単位:℃

調査年月日: 平成31年4月10日
測定者: 宮城県

1号機 2,3号機 取水口 1号機 2,3号機

0.5 m	1号機 浮上点 前面 較差		2,3号機 浮上点 前面 較差		取水口 前面 較差		
	1号機	2,3号機	1号機	2,3号機	St.17	St.32	
1	6.0	5.9	5.9	0.1	5.9	5.9	0.0
2	6.0	6.0	5.9	0.1	5.9	5.9	0.0
3	6.0	6.0	5.9	0.1	5.9	6.0	0.1
4	6.0	6.0	5.9	0.1	5.9	6.0	0.1
5	6.2	6.1	5.9	0.1	5.9	6.0	0.1
7	6.4	6.4	6.0	0.2	6.0	6.1	0.1
10	6.2	6.2	6.4	0.0	6.4	6.2	-0.2
15						6.3	
20						6.1	
海底上2 m (水深:m)	6.2	6.2	6.2	6.3			
	(15.0)	(15.0)	(15.0)	(8.5)			

過去同期の水温較差範囲 (S60.7~H30年度)	-1.5 ~ 2.2	-1.2 ~ 2.5
------------------------------	------------------	------------------

過去同期の水温較差範囲 (S60.7~H30年度)	-1.0 ~ 1.6	-1.3 ~ 1.4
------------------------------	------------------	------------------

調査年月日: 令和元年5月20日
測定者: 東北電力

1号機 2,3号機 取水口 1号機 2,3号機

0.5 m	1号機 浮上点 前面 較差		2,3号機 浮上点 前面 較差		取水口 前面 較差		
	1号機	2,3号機	1号機	2,3号機	St.17	St.32	
1	10.7	10.3	10.3	0.4	10.6	10.3	0.4
2	10.6	10.3	10.3	0.3	10.6	10.3	0.2
3	10.6	10.4	10.3	0.3	10.5	10.3	0.2
4	10.6	10.4	10.3	0.3	10.3	10.3	0.0
5	10.3	10.4	10.3	0.0	10.3	10.3	0.0
7	10.5	10.4	10.4	0.1	10.1	10.4	-0.3
10	10.4	10.4	10.1	0.3	10.1	10.1	0.0
15	9.7	10.1	9.6	0.1		9.6	
20							
海底上2 m (水深:m)	9.5	9.7	9.8				
	(15.0)	(13.5)	(11.0)				

過去同期の水温較差範囲 (S60.7~H30年度)	-1.5 ~ 1.8	-0.9 ~ 3.9
------------------------------	------------------	------------------

過去同期の水温較差範囲 (S60.7~H30年度)	-1.1 ~ 1.0	-1.2 ~ 0.8
------------------------------	------------------	------------------

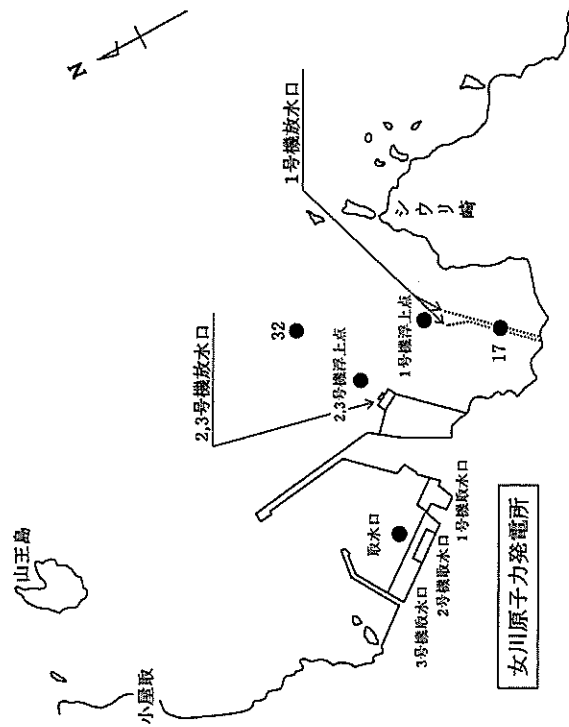


図-6 浮上点他と取水口位置

注1 「/」は海底に達したため測定不能箇所および較差が算出できない箇所を示す。
注2 営業運転開始年月: 1号機 S59.6(H30.12 運転終了), 2号機 H7.7, 3号機 H14.1

表一5 塩分鉛直分布(干潮時)

調査年月日：令和元年5月20日
測定者：東北電力

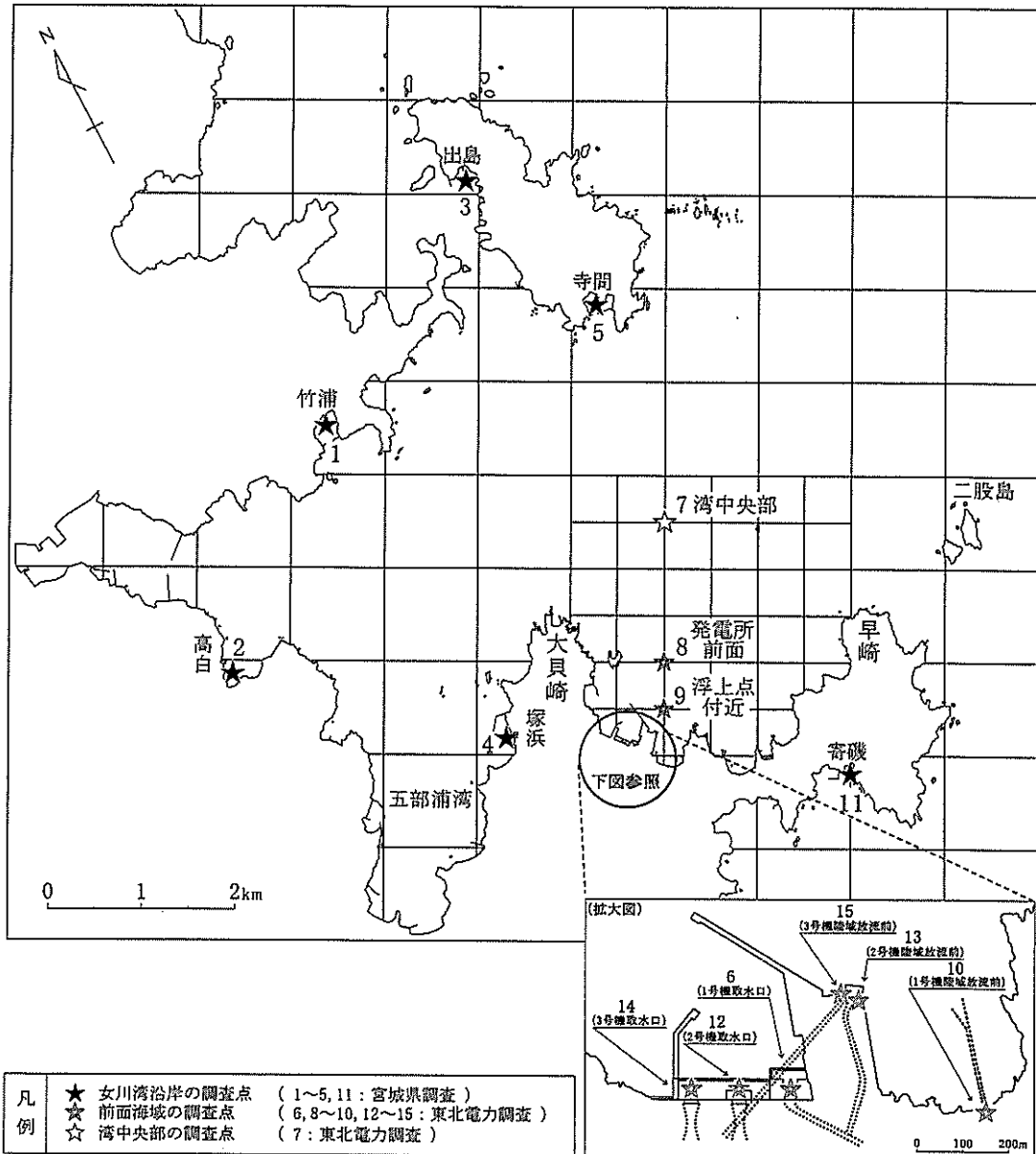
St. m	調査										海域										取水口 前面																		
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20		21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38
0.5	32.0	32.7	33.3	33.3	33.5	33.5	32.9	33.5	33.5	33.6	33.6	33.3	33.5	33.6	33.6	33.7	33.6	33.7	33.7	33.7	33.7	33.6	33.6	33.7	33.7	33.7	33.5	33.6	33.7	33.7	33.7	33.7	33.7	33.7	33.5	33.5	33.7	33.6	33.7
1	32.0	32.7	33.3	33.4	33.5	33.5	32.9	33.5	33.4	33.6	33.6	33.4	33.5	33.6	33.6	33.7	33.6	33.7	33.7	33.7	33.7	33.6	33.6	33.7	33.7	33.7	33.7	33.7	33.7	33.7	33.7	33.7	33.7	33.7	33.5	33.5	33.7	33.6	33.7
2	32.0	32.7	33.3	33.3	33.5	33.5	32.9	33.5	33.5	33.6	33.6	33.5	33.5	33.6	33.6	33.7	33.6	33.7	33.7	33.7	33.7	33.6	33.6	33.7	33.7	33.7	33.7	33.7	33.7	33.7	33.7	33.7	33.7	33.5	33.5	33.7	33.6	33.7	
3	32.8	32.7	33.3	33.4	33.5	33.5	32.9	33.5	33.5	33.6	33.6	33.6	33.7	33.6	33.6	33.8	33.8	33.6	33.7	33.7	33.7	33.6	33.6	33.7	33.7	33.7	33.7	33.7	33.7	33.7	33.7	33.7	33.7	33.5	33.5	33.7	33.6	33.7	
4	33.1	32.9	33.3	33.3	33.5	33.5	32.9	33.5	33.5	33.6	33.6	33.7	33.6	33.6	33.6	33.7	33.6	33.7	33.8	33.8	33.7	33.7	33.6	33.6	33.7	33.7	33.7	33.7	33.7	33.7	33.7	33.7	33.7	33.5	33.5	33.7	33.6	33.7	
5	33.2	33.3	33.4	33.5	33.4	33.5	32.9	33.5	33.4	33.6	33.6	33.6	33.7	33.6	33.6	33.7	33.7	33.8	33.8	33.8	33.8	33.7	33.6	33.6	33.7	33.7	33.7	33.7	33.7	33.7	33.7	33.7	33.5	33.5	33.7	33.6	33.7		
7	33.4	33.5	33.5	33.5	33.5	33.5	32.9	33.5	33.5	33.8	33.8	33.8	33.8	33.8	33.7	33.8	33.7	33.8	33.8	33.8	33.8	33.7	33.6	33.6	33.7	33.7	33.7	33.7	33.7	33.7	33.7	33.7	33.7	33.6	33.6	33.8	33.8	33.8	
10	33.5	33.5	33.6	33.7	33.5	33.6	33.5	33.5	33.5	33.8	33.8	33.8	33.8	33.8	33.8	33.8	33.8	33.8	33.8	33.8	33.8	33.7	33.7	33.8	33.8	33.8	33.8	33.8	33.8	33.8	33.8	33.8	33.8	33.8	33.8	33.8	33.8	33.8	
15	33.5	33.6	33.6	33.6	33.6	33.6	33.6	33.6	33.7	33.8	33.8	33.8	33.8	33.8	33.8	33.8	33.8	33.8	33.8	33.8	33.8	33.8	33.8	33.8	33.8	33.8	33.8	33.8	33.8	33.8	33.8	33.8	33.8	33.8	33.8	33.8	33.8	33.8	
20	33.6	33.6	33.6	33.6	33.6	33.6	33.6	33.7	33.7	33.7	33.7	33.7	33.7	33.7	33.7	33.7	33.7	33.7	33.7	33.7	33.7	33.7	33.7	33.7	33.7	33.7	33.7	33.7	33.7	33.7	33.7	33.7	33.7	33.7	33.7	33.7	33.7	33.7	
海底上2m	33.5	33.7	33.6	33.7	33.6	33.6	33.7	33.7	33.5	33.7	33.7	33.7	33.8	33.7	33.7	33.7	33.8	33.8	33.7	33.7	33.7	33.6	33.6	33.7	33.7	33.7	33.7	33.7	33.7	33.7	33.7	33.7	33.7	33.7	33.7	33.7	33.7	33.7	
(水深:m)	(15.0)	(27.5)	(14.0)	(35.0)	(25.0)	(20.5)	(25.0)	(37.0)	(15.0)	(33.0)	(10.0)	(11.0)	(25.0)	(40.5)	(36.0)	(23.5)	(8.5)	(10.0)	(32.5)	(26.5)	(23.0)	(22.5)	(33.0)	(43.0)	(39.5)	(35.0)	(64.5)	(25.5)	(23.5)	(11.5)	(35.0)	(16.0)	(36.5)	(29.0)	(33.0)	(19.5)	(38.5)	(40.0)	(34.5)

注 1 St. はステーションの意で測定地点を示す。
 2 「/」は海底に達したため測定不能箇所を示す。
 3 実用塩分(気象庁「海洋観測指針」による)であり、電気伝導度比により定義されるため単位はない。海水1kg中に含まれる塩分(g)と同程度の値を示す。

■ 範囲内の最大値
 □ 範囲内の最小値

(2)水温調査（モニタリング）

水温調査（モニタリング）においては、1～5, 11を女川湾沿岸、6, 8～10, 12～15を前面海域、7を湾中央部として記述することとする。

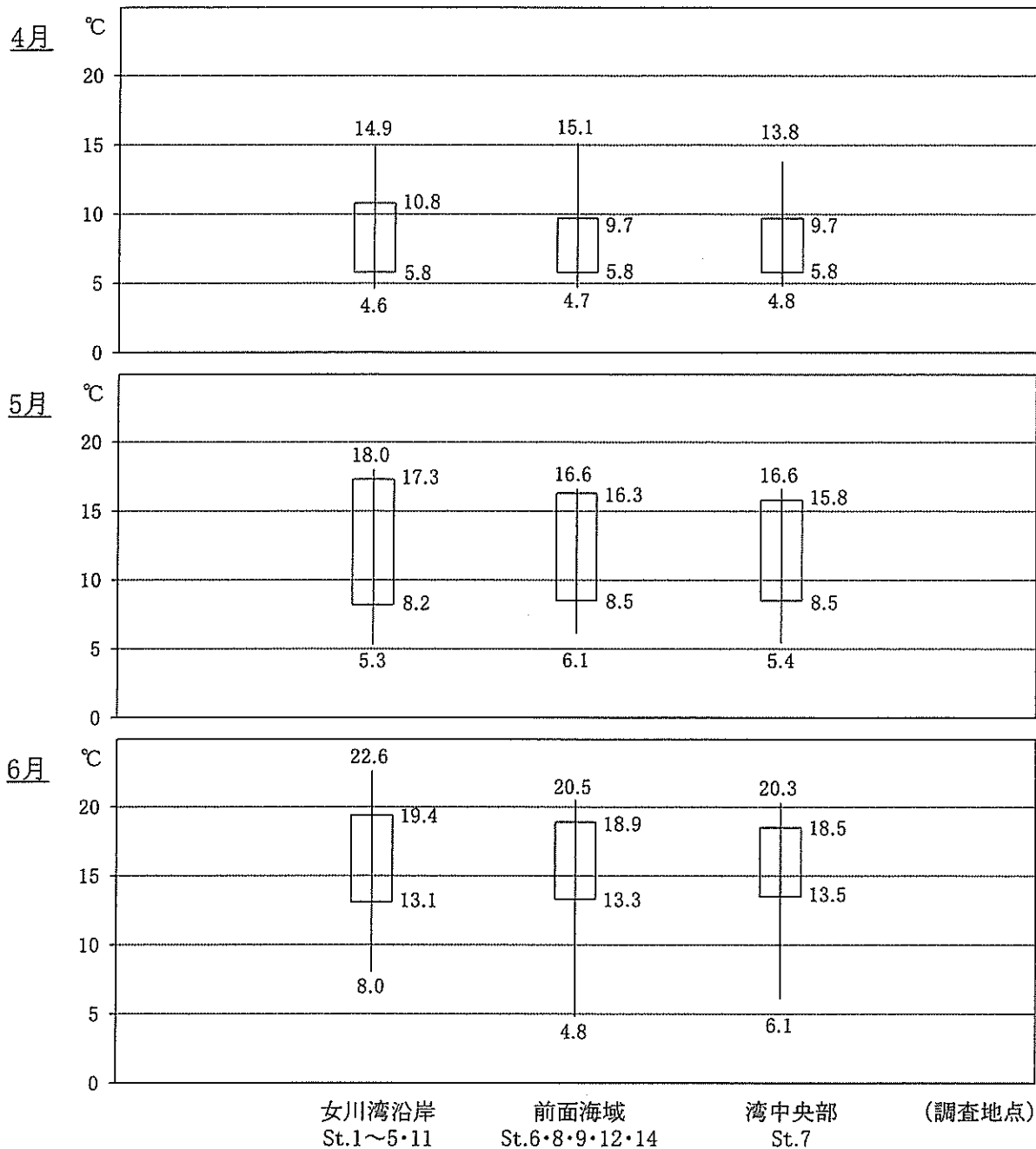


図－7 水温調査（モニタリング）位置

当該四半期の水温調査（モニタリング）で得られた結果からは、温排水の影響と考えられる異常な値は観測されなかった。なお、調査結果は以下に示す通りである。

女川湾沿岸（1～5, 11）の水温と前面海域（6, 8, 9, 12, 14）の水温の調査結果は図-8, 10および表-6に示す通りであり、前面海域の水温は、女川湾沿岸の水温と比較して、全体としてはほぼ同範囲で推移していた。浮上点付近と前面海域各調査点との水温較差の出現日数については、図-9に示す通りであり、5月および6月の水温較差の一部が負の側に多く出現したが、これは港内にある取水口近辺が気温上昇の影響を強く受けたためと考えられた。

過去同期との比較では、水温は全ての調査海域において過去の測定範囲内にあった。

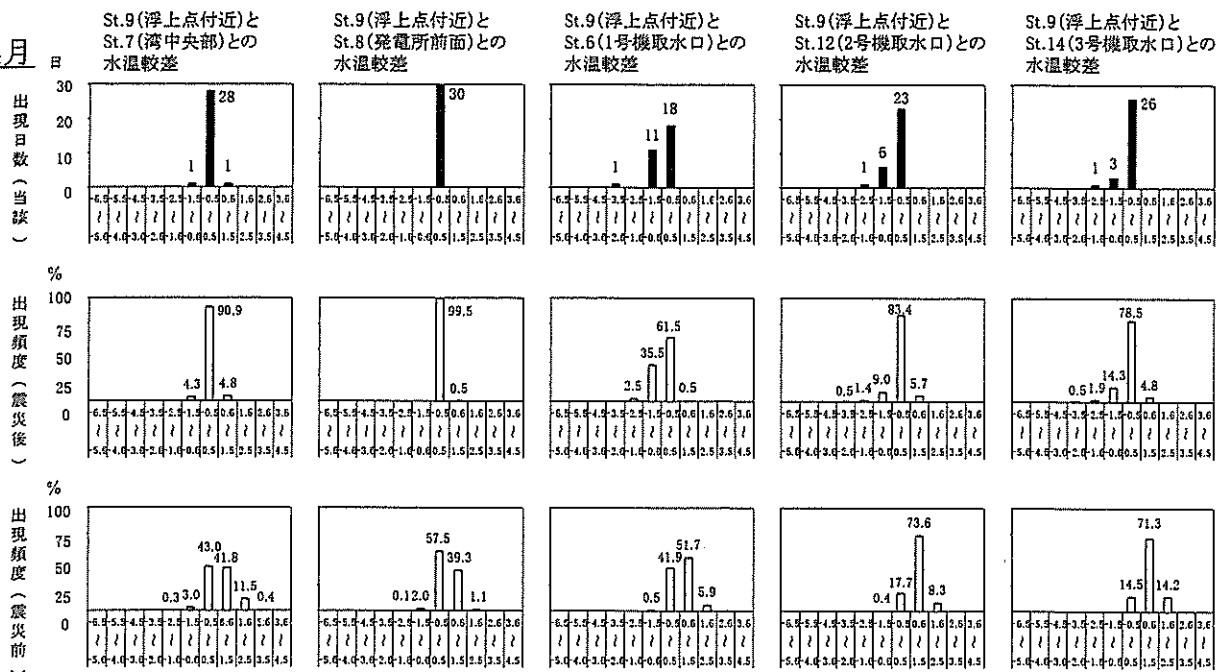


凡例

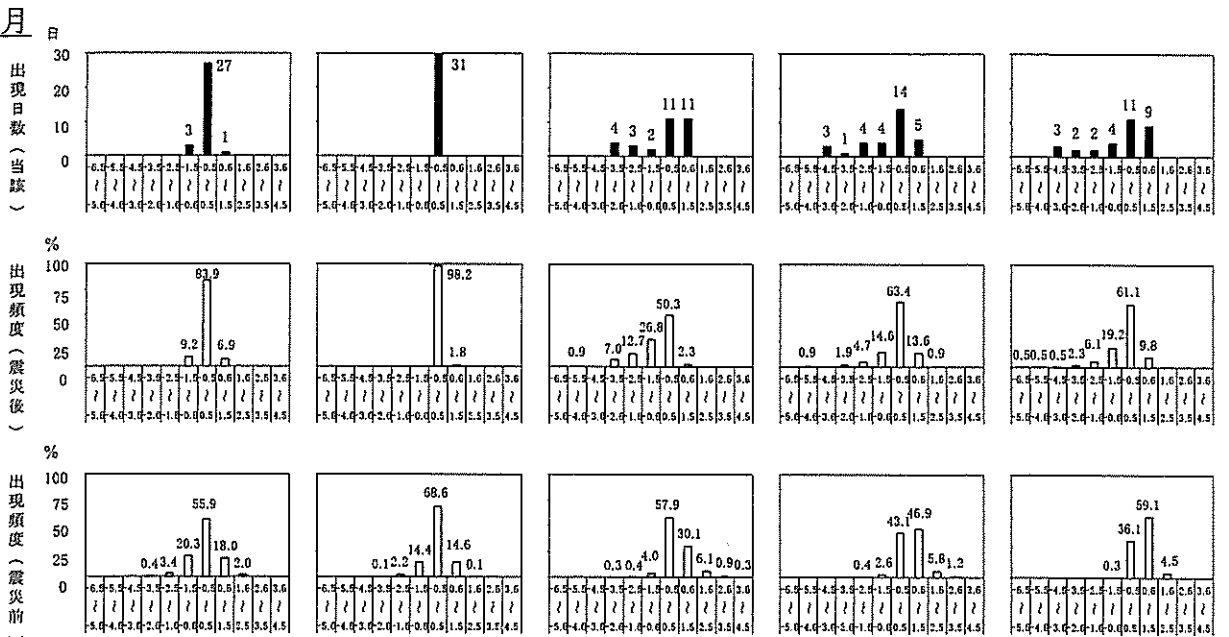
- ← 運開(S59.6)からH30年度までの最大値(当該月)
- ← 今回の最大値
- ← 今回の最小値
- ← 運開(S59.6)からH30年度までの最小値(当該月)

図-8 水温調査(モニタリング)による水温測定範囲

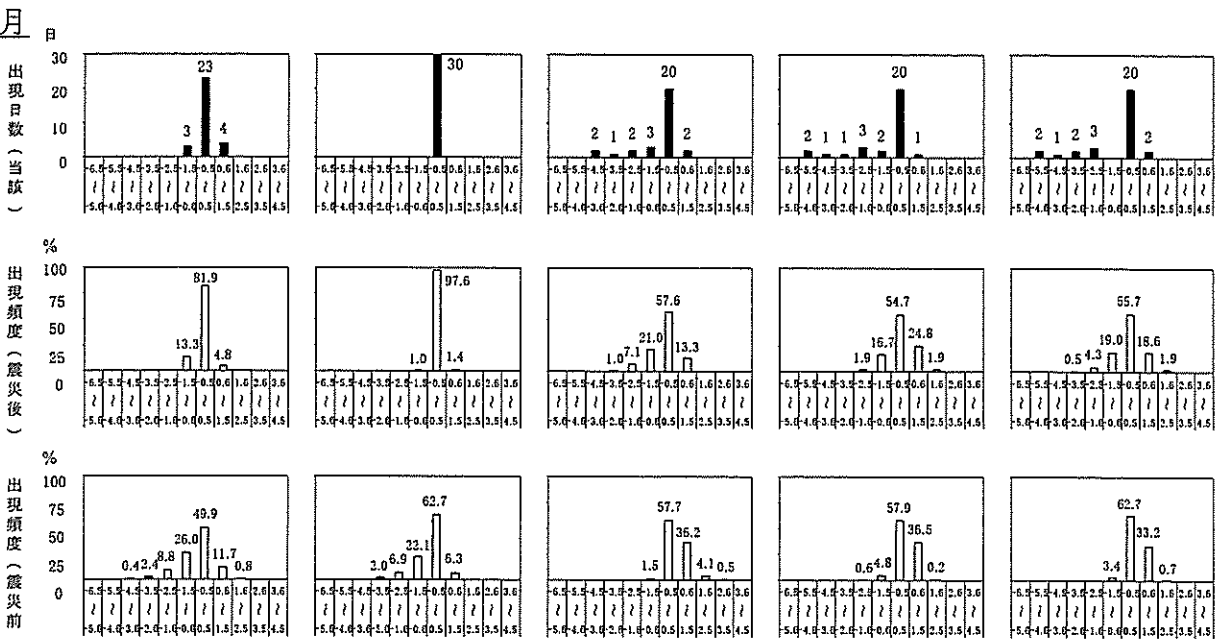
4月



5月



6月



水温較差(°C)

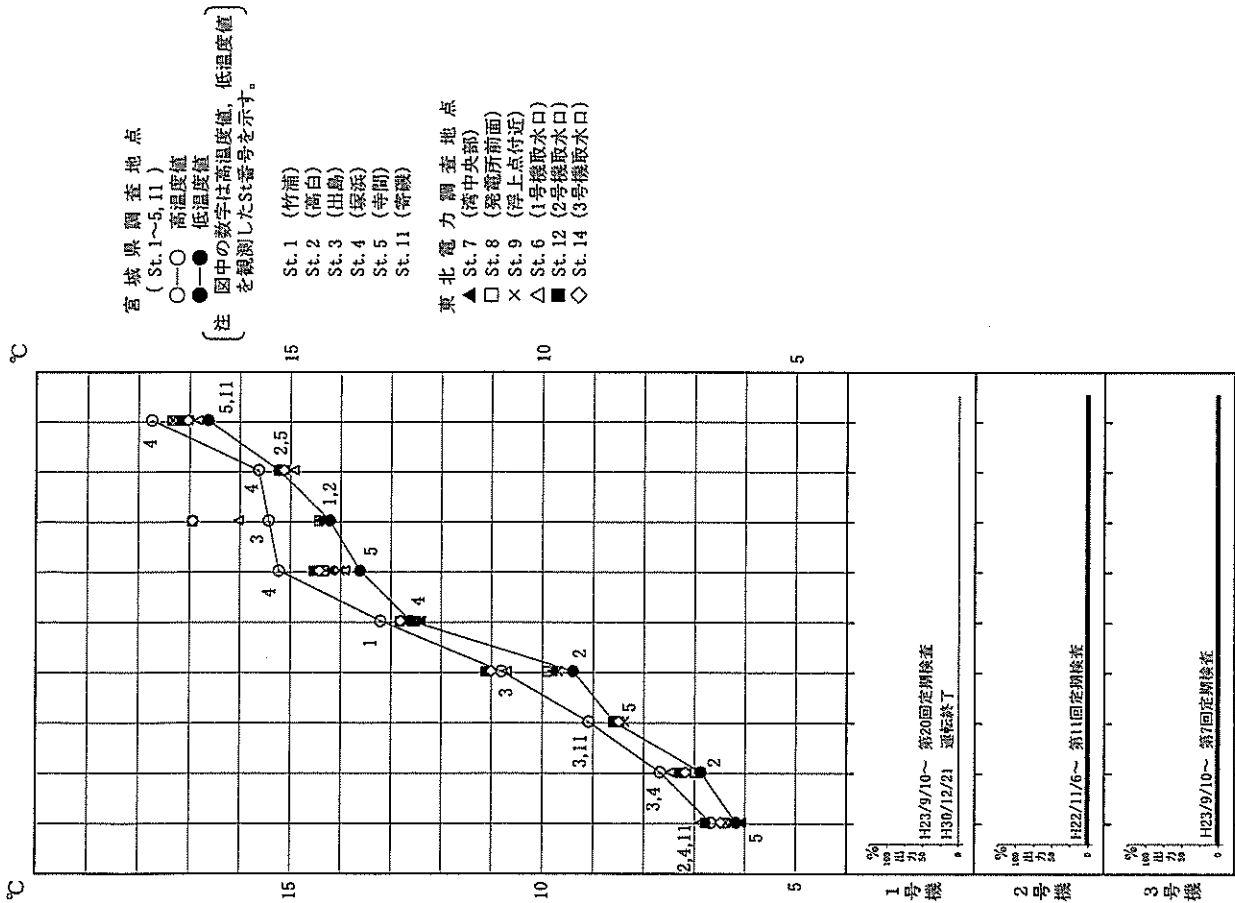
注1 上段の黒色棒グラフは当該月の出現日数を示し、中段および下段の白抜き棒グラフは過去(震災前・後)の出現頻度を示す。
 2 過去のデータ期間は、震災前(S59.6~H23.3.10)、震災後(H23.3.11~H31.3.31)とした。

図-9 浮上点付近と前面海域各調査点との水温較差の出現日数

表一6 水温調査(モニタリング)月旬平均水温

月	宮城県調査地点				東北電力調査地点										
	最高温度値		最低温度値		St.7	St.8	St.9	St.6	St.10	St.12	St.13	St.14	St.15		
	地点名	—	地点名	—	湾中央部	発電所前部	浮上点付近	1号機取水口	1号機取水口	2号機取水口	2号機取水口	3号機取水口	3号機取水口		
4月	上旬	高白(St.2)	6.7	寺間(St.5)	6.2	6.4	6.4	6.9	7.2	6.8	6.7	6.5	6.7		
	中旬	出島(St.3)	7.7	高白(St.2)	6.9	7.0	6.9	7.5	7.7	7.3	6.9	7.2	6.9		
	下旬	出島(St.3)	9.1	寺間(St.5)	8.6	8.5	8.4	8.6	8.7	8.6	8.1	8.5	8.1		
5月	上旬	出島(St.3)	10.8	高白(St.2)	9.4	9.8	9.9	10.7	9.2	11.1	8.9	11.0	8.9		
	中旬	竹浦(St.1)	13.2	緑浜(St.4)	12.6	12.4	12.5	12.4	11.8	12.8	11.2	12.8	11.3		
	下旬	緑浜(St.4)	15.2	寺間(St.5)	13.6	14.2	14.3	14.0	12.3	14.5	11.5	14.4	11.8		
6月	上旬	出島(St.3)	15.4	竹浦(St.1)	14.2	14.4	14.4	14.3	13.6	16.9	13.4	16.9	13.3		
	中旬	緑浜(St.4)	15.6	高白(St.2)	15.2	15.1	15.2	15.2	14.9	15.0	15.2	15.3	15.1		
	下旬	緑浜(St.4)	17.7	寺間(St.5)	16.6	17.0	17.3	17.3	16.8	16.4	16.4	17.0	16.4		

単位: °C



図一10 水温調査(モニタリング)月旬平均水温

資料

表一7 調査方法

測定者：宮城県

調査事項	月日	地点数	観測層	方法	項目
物理調査	1.水溫・塩分調査	43	0.5, 1, 2, 3, 4, 5, 7, 10, 15, 20, 海底上2m	電氣水溫, 塩分計を用いて測定	水溫, 塩分
	2.流動調査	1	2, 15m	電磁自記式流向流速計により, 15昼夜連続測定	流向, 流速
	3.海象調査	1	—	目視による測定	波高, 波向
	4.水質調査	4.10	0.5, 5, 10, 20 海底上1m	電氣水溫, 塩分計を用いて測定 バンドーン型採水器を用いて採水し, 測定, 分析	水溫, 塩分, SS, 透明度, pH, DO, COD, PO ₄ -P, NH ₄ -N, NO ₂ -N, NO ₃ -N
	5.底質調査	5.13	18	スミス・マッキンタイヤ型採泥器を用いて採泥し, 測定, 分析	泥温, 水分含有率, Eh, ll-, T-S, COD, 粒度組成
	6.水溫調査 (モニタリング)	周年	6	簡易記録式水溫計による連続測定	水溫
生物調査	1.養殖生物調査	5.28	6	現地観察調査	種類, 量, 生育状況など
		~6.12		聞き取りによる調査 (養殖生物 … マガキ・ワカメ [2~3月], マボヤ [5~6月])	

注 月日欄の「—」は, 今期の実施対象外調査を示す。

表一8 調査方法

測定者:東北電力

調査事項	月日	地点数	観測層	方法	項目
物理調査	1.水温・塩分調査	43	0.5, 1, 2, 3, 4, 5, 7, 10, 15, 20, 海底上2m	電気水温, 塩分計を用いて測定	水温, 塩分
	2.流動調査	6	2, 海底上2m	電磁自記式流向流速計により, 20昼夜連続測定	流向, 流速
	3.海象調査	1	—	超音波式自記波高計及び陸上からトランシットにより測定	波高, 波向
	4.水質調査	18	0.5, 5, 10, 20 海底上1mまたは0.5m	バンドーン型採水器を用いて採水し, 測定, 分析	水温, 塩分, SS, 透明度, pH, DO, COD, n-ヘキ, PO ₄ -P, T-P, NH ₄ -N, NO ₂ -N, NO ₃ -N, Org-N, T-N, クロロフィルa, フェオフィチン
	5.底質調査	6	0.5m	スミス・マッキンタイヤ型採泥器を用いて採取し, 測定, 分析	CN, Cr(VI), Cd, Pb, Zn, Cu, As, T-Fe, T-Mn, T-Cr, T-Hg, R-Hg, Org-P, PCB, 大腸菌群数
	6.気象観測	1	—	発電所敷地内露場にて「地上気象観測指針」に基づき観測	泥温, 水分含有率, Eh, IL, T-S, COD, Org-C, Org-N, 粒度組成
	7.水温調査 (モニタリング)	9	0.5m St.10,13,15については 水路敷上3m	水温計を搭載した観測ブイならびにフローティング装置による連続モニタリング St.10,13,15については固定式水温計による連続モニタリング	CN, Cd, Pb, Zn, Cu, Cr(VI), As, T-Fe, T-Mn, T-Cr, T-Hg, R-Hg, Org-P, PCB, HCH, n-ヘキ, 大腸菌群数 風向, 風速, 気温, 湿度, 降水量など

注 月日欄の「—」は, 今期の実施対象外調査を示す。

表一9 調査方法

測定者：東北電力

調査事項	月日	地点数	観測層	方法	項目
1. プランクトン調査	4.16	4	0～5, 5～10, 10～20, 20～海底上1m	北原式定量ネットNXX13の鉛直曳きにより採集	動物, 植物プランクトンの出現種, 出現量, 沈殿量
			0～5, 5～10, 10～20, 20～海底上1m	同上	同上
	5.24	18	表層, 10m	丸稚ネットGG54の水平曳きにより採集	大型動物プランクトンの出現種, 出現量
			表層, 10m	バンブー型採水器を用いて採集	動物, 植物プランクトンの出現種, 出現量, 沈殿量
	6.14	4	0～5, 5～10, 10～20, 20～海底上1m	北原式定量ネットNXX13の鉛直曳きにより採集	同上
			表層, 10m	丸稚ネットGG54の水平曳きにより採集	魚卵, 稚仔魚の出現種, 出現量
	4.16	4	表層, 10m	同上	同上
			5.24	21	表層, 10m
	6.14	2	0～海底上1m	丸特ネットGG54の鉛直曳きにより採集	同上
			4	4	表層, 10m
3. 底生生物調査	—	18	—	スミス・マッキンタイヤ型採泥器を用いて採集	マクロベントスの出現種, 出現量
			—	新野式ドレッジを用いて採集	メガロベントスの出現種, 出現量
4. 潮間帯生物調査	5.8～16	8	高, 中, 低潮下帯	ダイバーによる高潮帯から潮下帯までの観察及び方形形採集	海藻草類, 動物の出現種, 出現量, 生息密度, 現存量
			8	8	0～15m
5. 漁業漁獲調査	—	8	5, 10, 15m	ダイバーによる水深5m, 10m, 及び15m地点の坪刈採集	海藻草類, 動物の出現種, 出現量, 現存量
			5.16～18	5※	—
	5.16～17	5	—	底刺網に捕獲された漁獲物を調査	同上

注1 月日欄の「—」は、今期の実施対象外調査を示す。

2 ※は、実施可能な桐ヶ崎地点および奇磯地点の2地点で実施した。

表-10 水温・塩分調査時の観測条件

調査年月日：平成31年4月10日

7時53分～9時34分

波	高	0.53 m (日平均)		
波	向	NE		
潮	汐 (O.P.) ^{※1} 満潮	0.69 m	(5:56)	
	干潮	-0.44 m	(12:30)	
風	速	0.9 m/s		
風	向	ESE		
気	温	4.1 °C (日平均)		
湿	度	75 % (日平均)		
取水口温度	1号機	6.0 °C	2号機 6.3 °C	3号機 6.1 °C
陸域放流前温度	1号機	7.4 °C	2号機 6.6 °C	3号機 6.4 °C
放水量 ^{※2}	1号機	2.0 m ³ /sec.	2号機 3.0 m ³ /sec.	3号機 3.0 m ³ /sec.

※1 潮位の観測基準面は、発電所基準面O.P. = 0.0m(東京湾基準T.P. = -0.74m)である。

※2 定格熱出力一定運転時の放水量は、1号機 39m³/sec., 2号機 60m³/sec., 3号機 60m³/sec. であり、復水器設計水温上昇値は7°Cである。

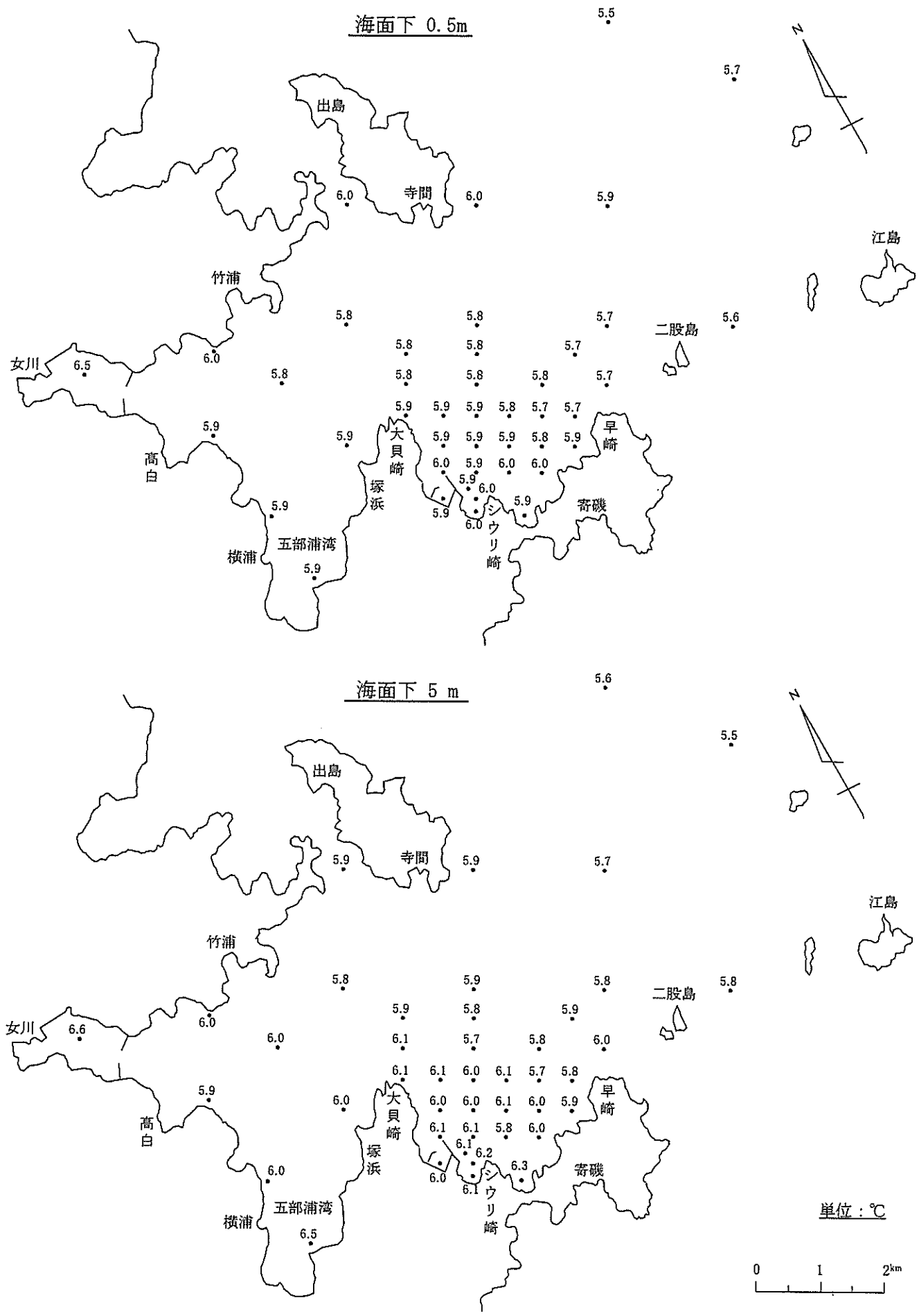
調査年月日：令和元年5月20日

8時30分～9時44分

波	高	0.44 m (日平均)		
波	向	NE		
潮	汐 (O.P.) ^{※1} 満潮	0.57 m	(3:10)	
	干潮	-0.79 m	(10:18)	
風	速	4.4 m/s		
風	向	SSE		
気	温	18.4 °C (日平均)		
湿	度	74 % (日平均)		
取水口温度	1号機	13.3 °C	2号機 14.3 °C	3号機 14.3 °C
陸域放流前温度	1号機	11.7 °C	2号機 10.4 °C	3号機 10.3 °C
放水量 ^{※2}	1号機	2.0 m ³ /sec.	2号機 3.0 m ³ /sec.	3号機 3.0 m ³ /sec.

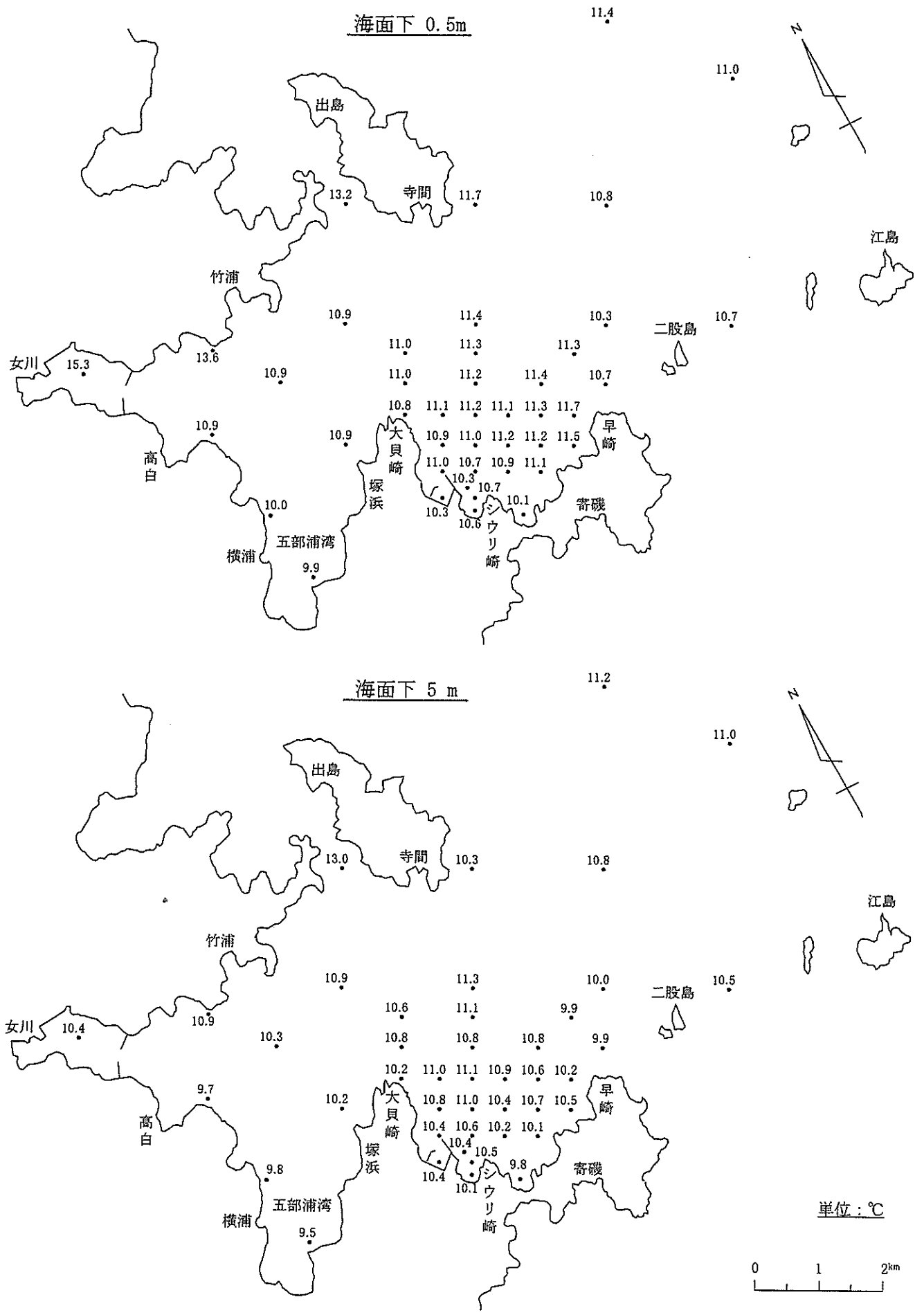
※1 潮位の観測基準面は、発電所基準面O.P. = 0.0m(東京湾基準T.P. = -0.74m)である。

※2 定格熱出力一定運転時の放水量は、1号機 39m³/sec., 2号機 60m³/sec., 3号機 60m³/sec. であり、復水器設計水温上昇値は7°Cである。



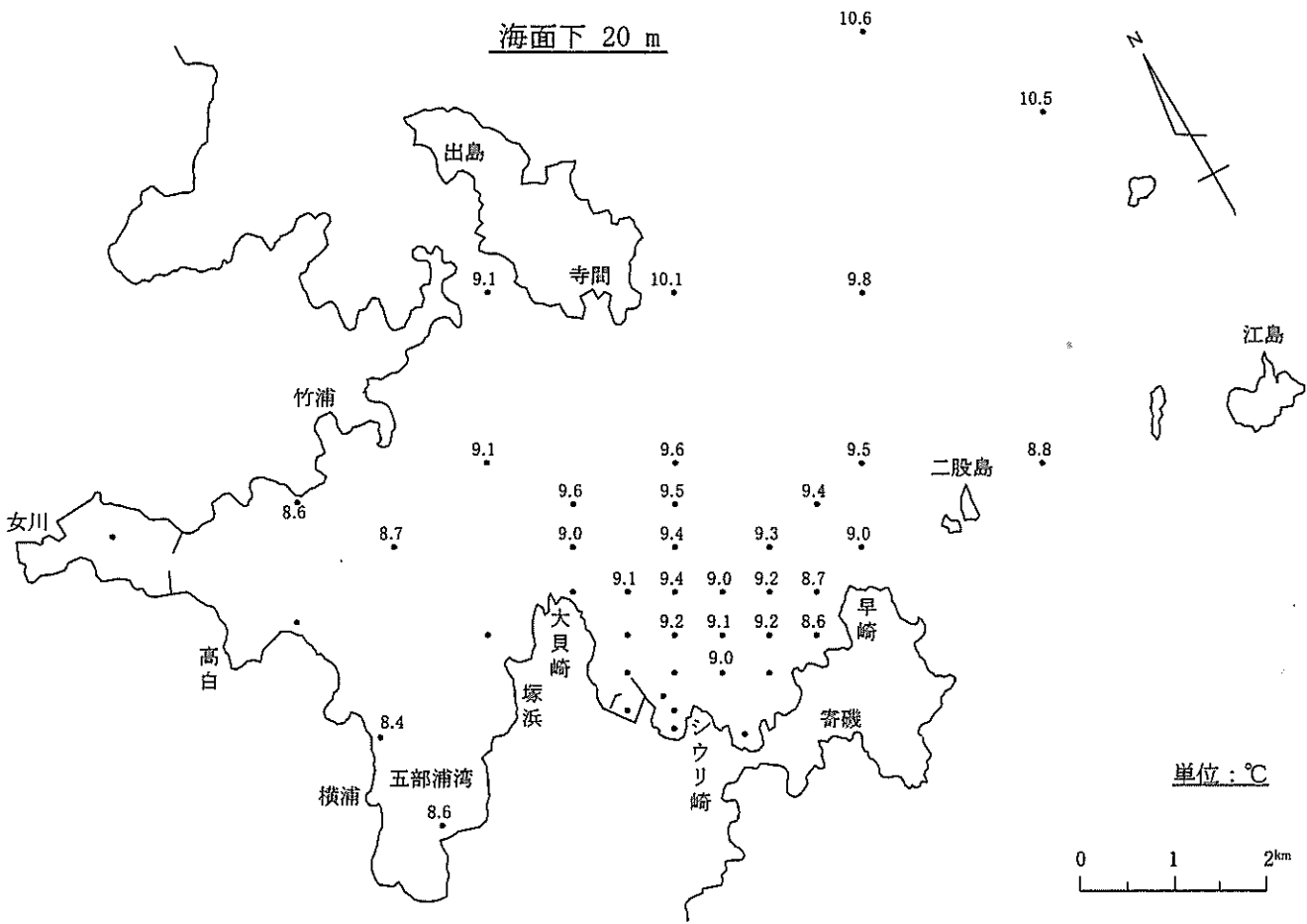
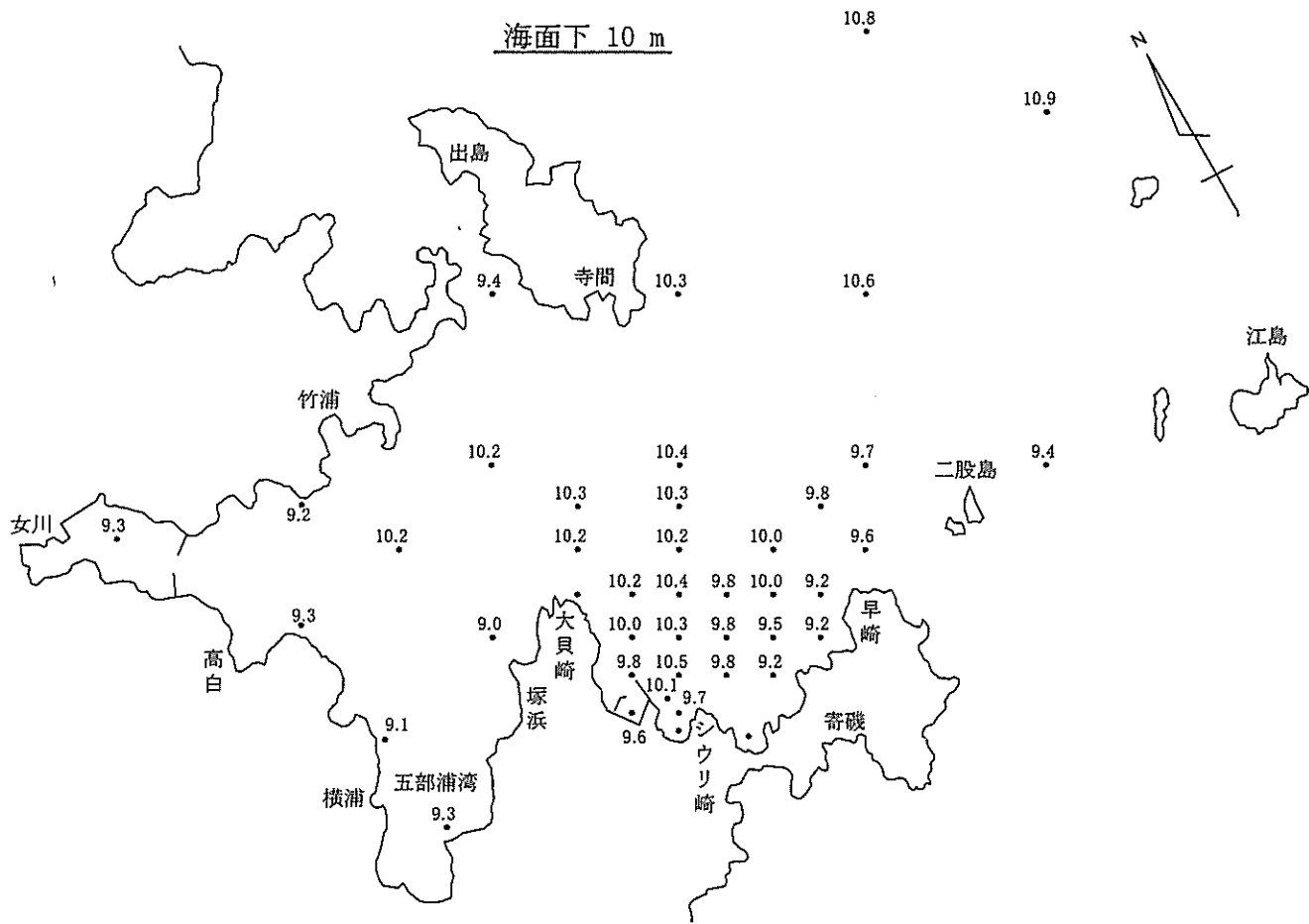
調査年月日：平成 31 年 4 月 10 日（干潮時） 測定者：宮 城 県

図-11-(1) 水温水平分布



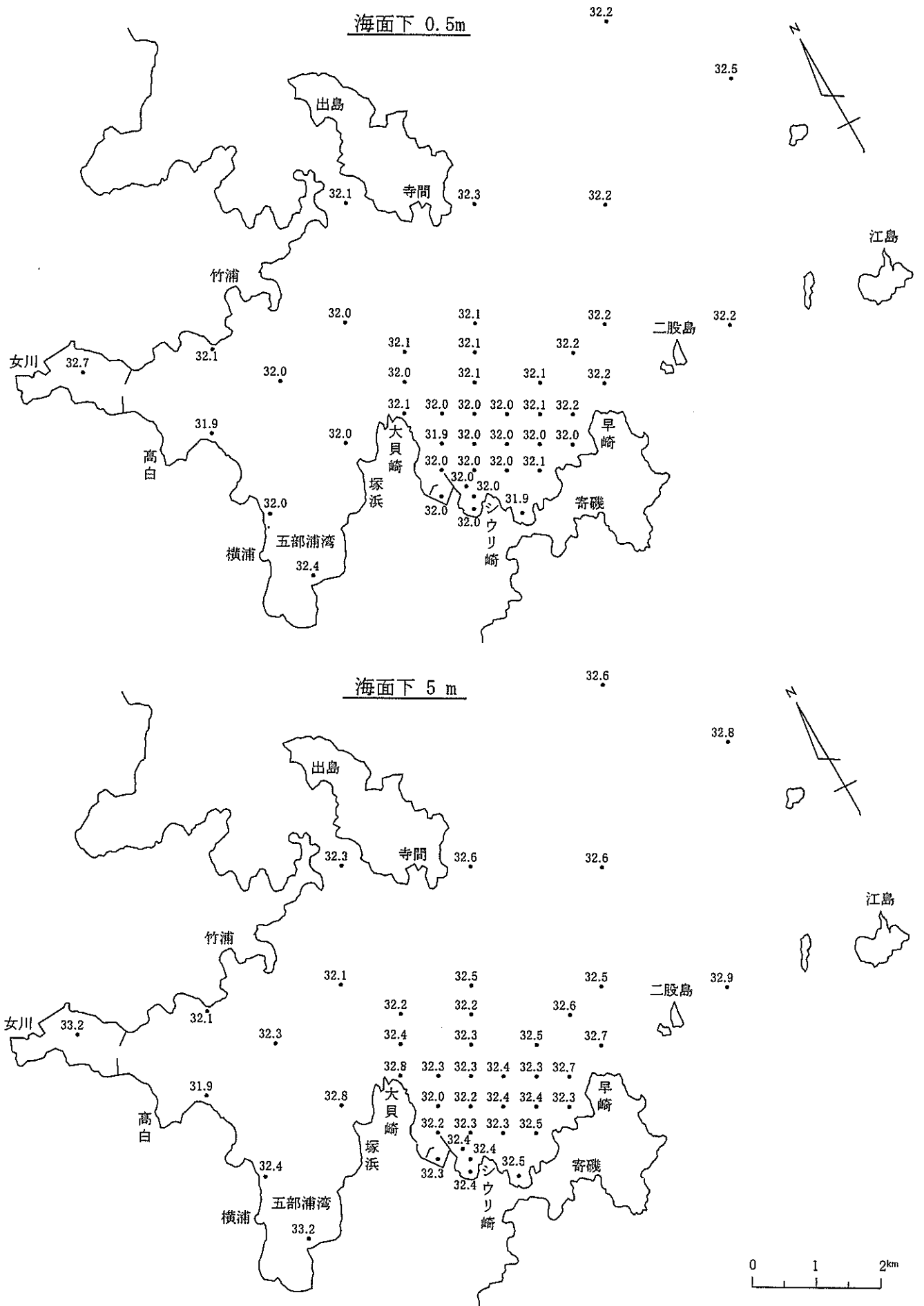
調査年月日：令和元年 5月20日（干潮時） 測定者：東北電力

図-12-(1) 水温水平分布



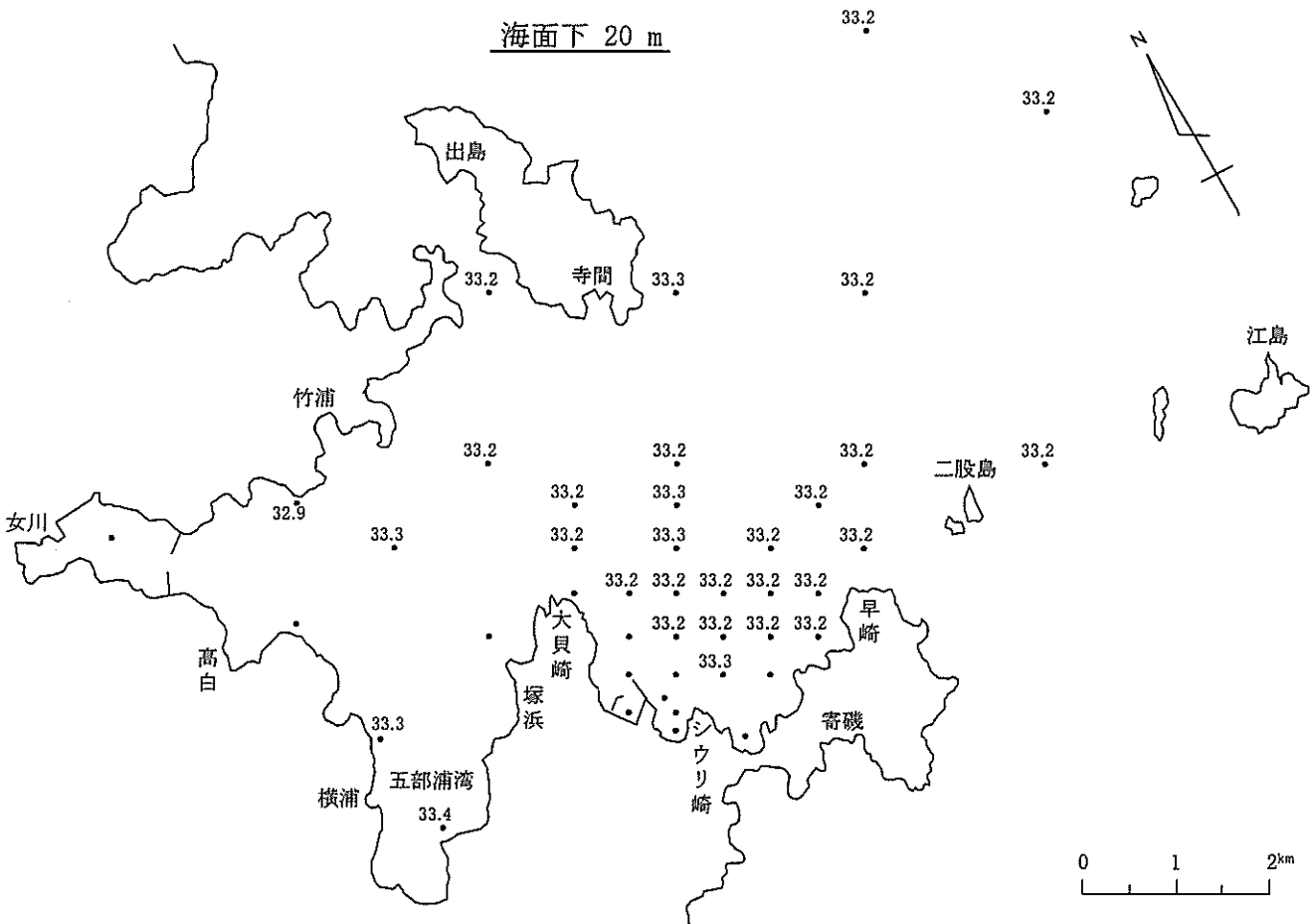
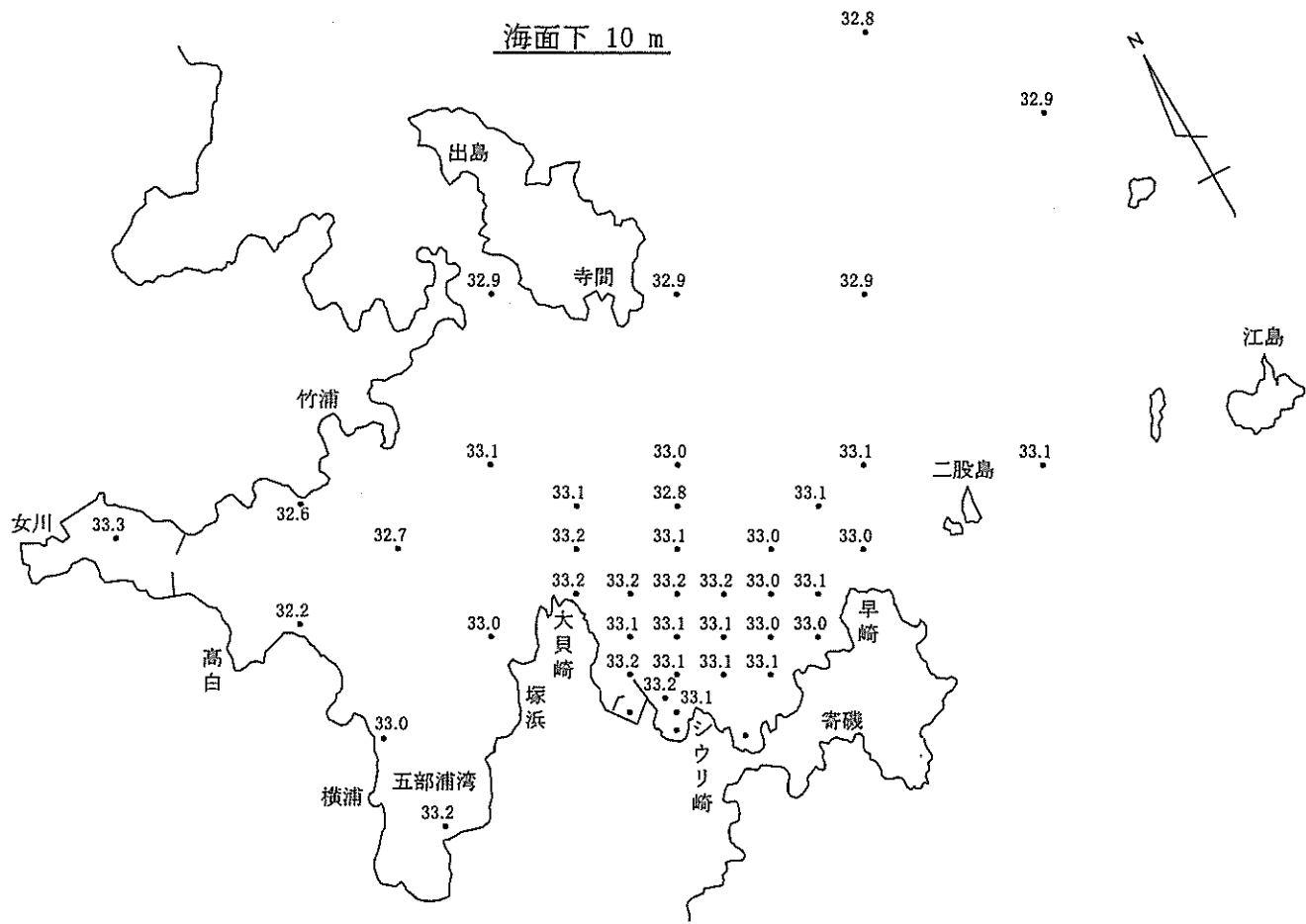
調査年月日：令和元年 5月20日（干潮時） 測定者：東北電力

図-12-(2) 水温水平分布



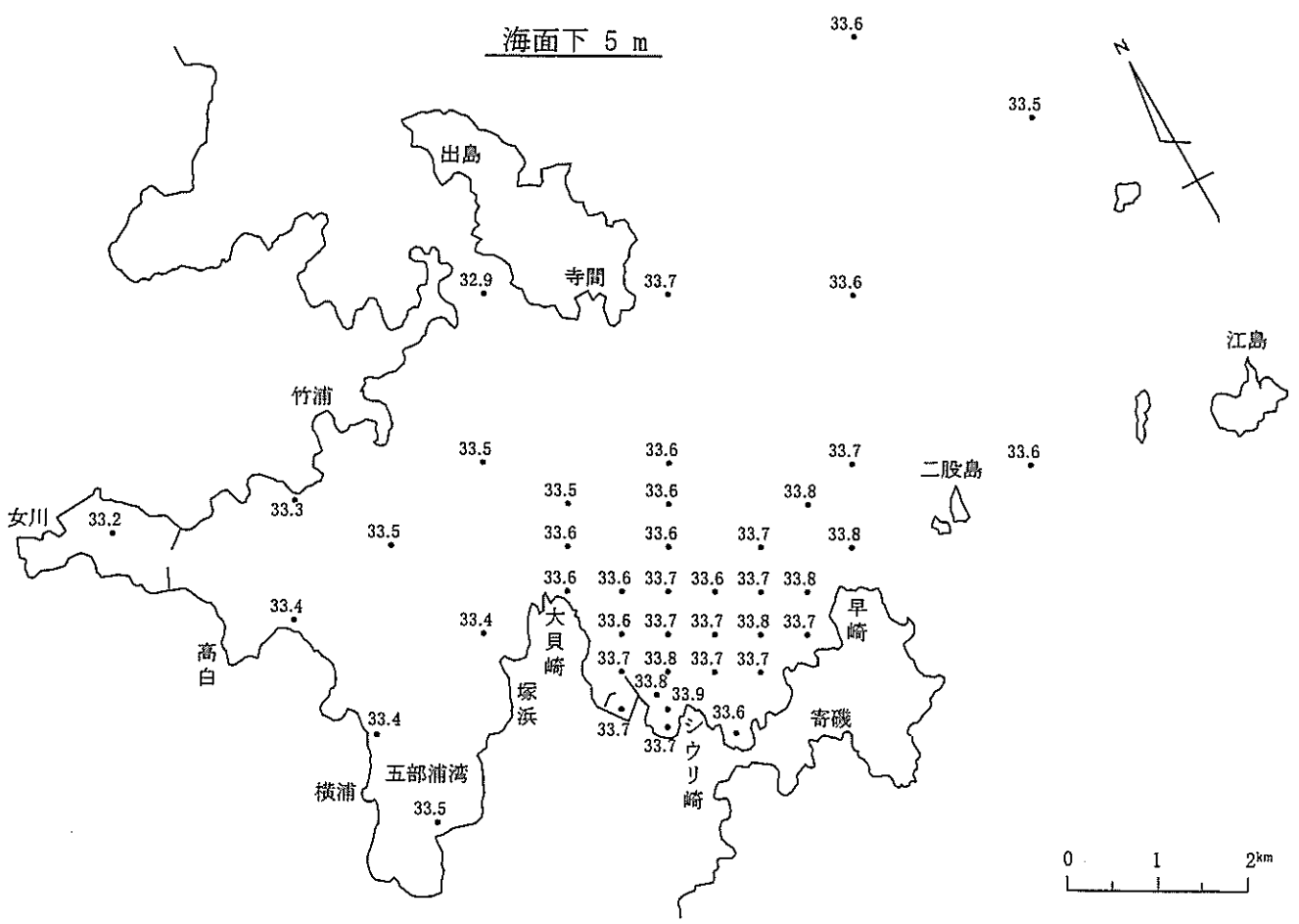
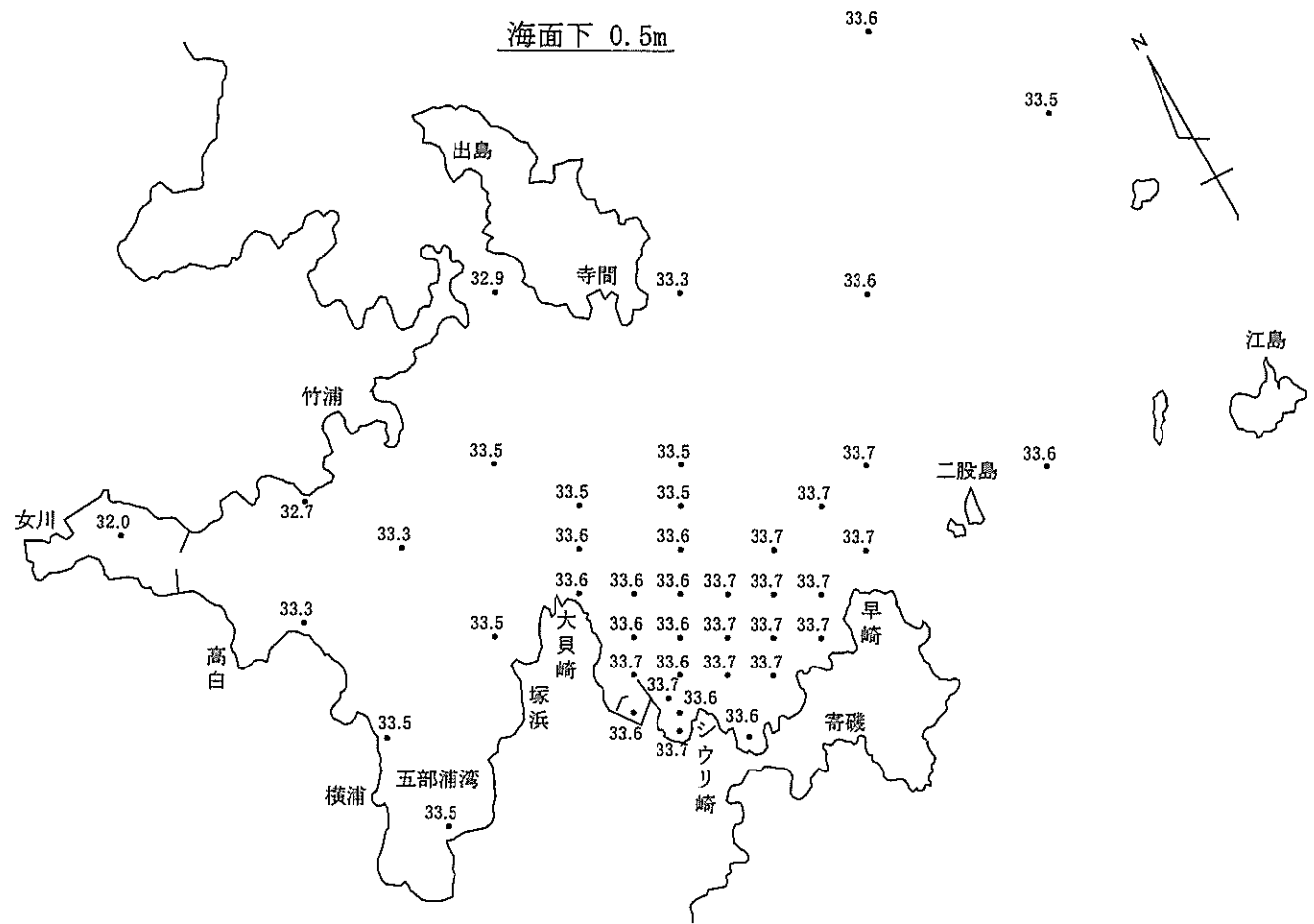
調査年月日：平成 31 年 4 月 10 日（干潮時） 測定者：宮 城 県

図-13-(1) 塩分水平分布



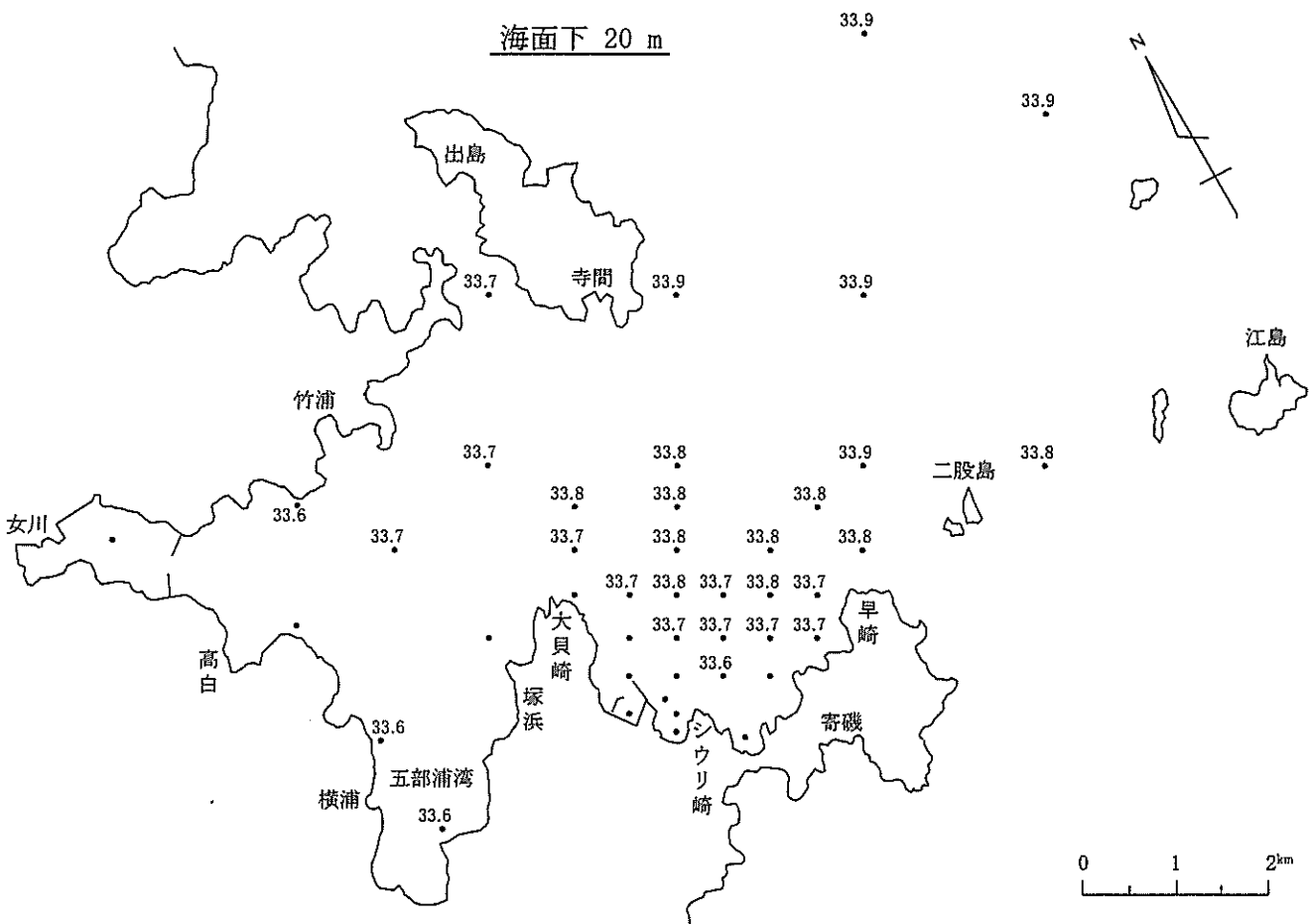
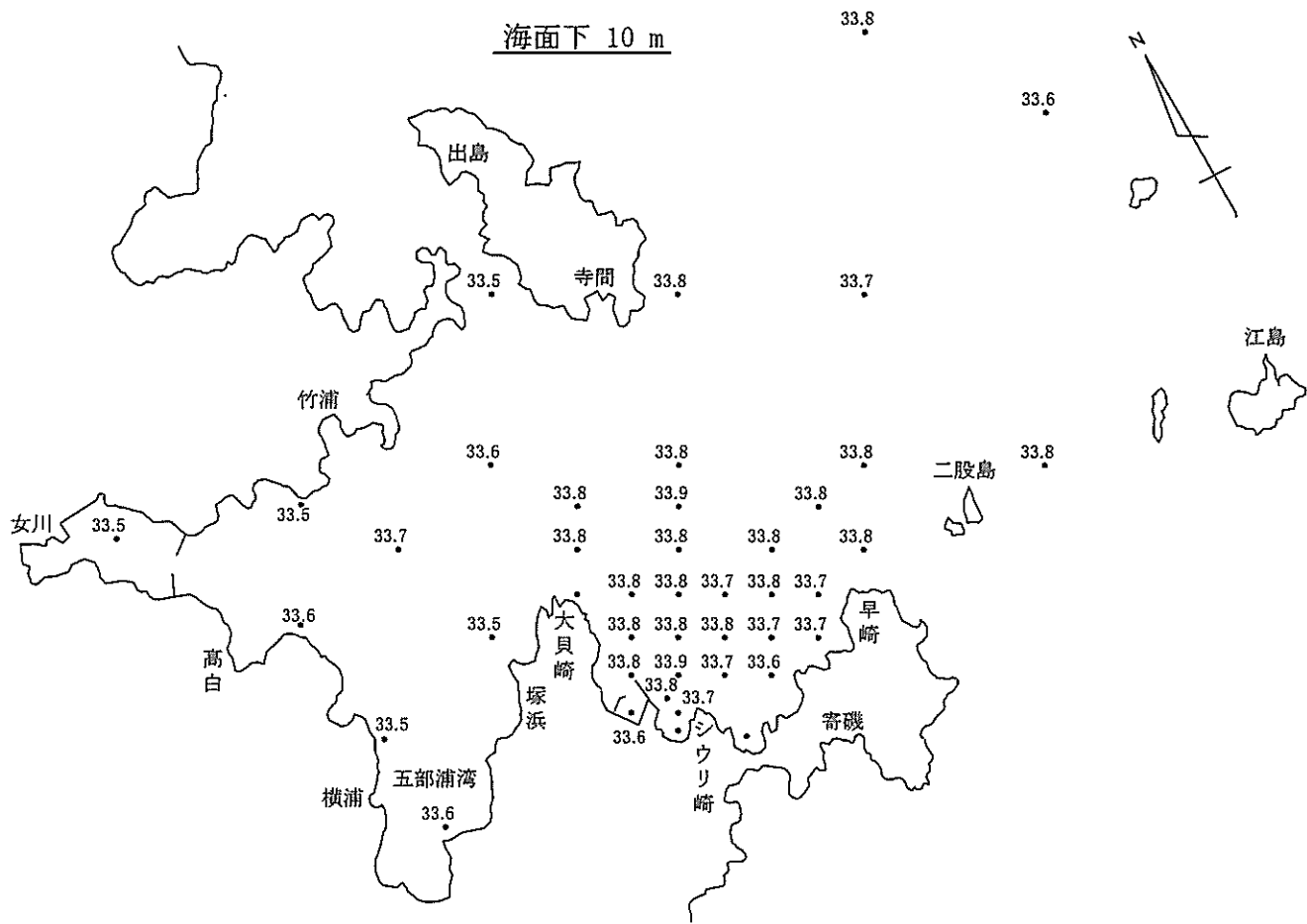
調査年月日：平成 31 年 4 月 10 日（干潮時） 測定者：宮 城 県

図-13-(2) 塩分水平分布



調査年月日：令和元年 5月20日（干潮時） 測定者：東北電力

図-14-(1) 塩分水平分布



調査年月日：令和元年 5月20日（干潮時） 測定者：東北電力

図-14-(2) 塩分水平分布

